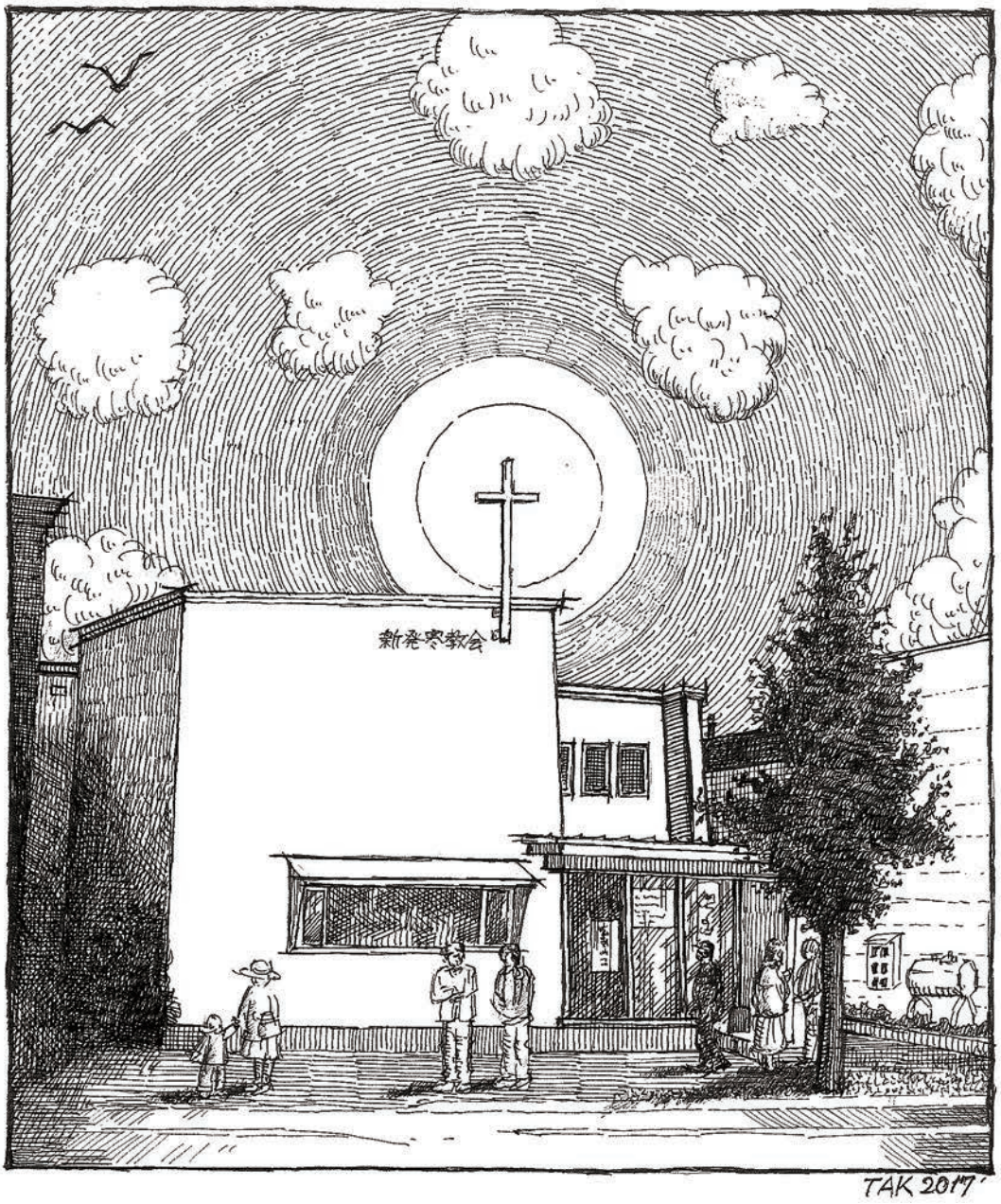
2017年12月1日発行

あなたと教区を結ぶ

北海教区通信

2017 タンチョウ号　　第203号



日本基督教団　北海教区

もくじ

- 表紙の教会　新発寒教会（しんはっさむ）　…1
- みことばに聴く　「不明なアーティスト」　…2
  卜部（うらべ）　康之（やすゆき）牧師（千歳栄光教会（ちとせえいこう））
- 特集　座談会「ネクスト北海教区」　…4
- 幹事室より　…9
- 常置委員会報告　…10
- 各委員会から
  - 平和部門委員会　「第７７回北海教区総会決議」　…11
    - 上映会報告「知事抹殺の真実」
    - 大丈夫か!? 北海道～小学校道徳教科書採択結果から～
    - 第 13 回部落解放全国会議報告ほか 3 件
  - 連帯部門委員会　…16
    - 教職講座報告「福音宣教を共に担うために」-『教団戦責』告白 50 年 -
    - 収穫感謝の集い、パティ・タルボットさん来訪
  - 革新部門委員会　…19
    - 第 37 回教会の手話研修会報告・高齢化を考えるキャラバン報告
  - アイヌ民族情報センター　…22
    - 新ひだか町での遺骨返還裁判始まる
  - ハラスメント防止委員会　…23
    - 教会におけるハラスメントとその防止について考える」
  - 性差別問題担当委員会　エッセイ：カラフル　…24
  - 第 66 回北海教区年頭修養会ニュース　…25
  - 東日本大震災支援委員会　…26
- 北海教区各地区の働き　…28
- 連載　Divan のウタンガイ　…32
- 北海教区 4 つのセンター　道北クリスチャンセンター
  「道北センターの維持会員・賛助会員になってください！」　…33
- クロスワード　…34
- 編集後記・マンガ　…35
- 広　告　…36 ～

＊今号の「すきなものこと風景」は休載させていただきます。

表紙の教会

新発寒教会（しんはっさむ）

札幌市手稲区新発寒４条５丁目 16-7

新発寒教会は 2016 年に創立 50 周年を迎えました。その節目の年に、会堂・牧師館の新築工事に着手し、今年６月には献堂式を執り行いました。

光が射し込む礼拝堂

1966 年、野村喬（たかし）牧師は新発寒地域（発寒勤労者団地）で自宅を開放し礼拝を始められました。新発寒教会の誕生です。当時この一帯は笹やクマイチゴが群生する原野、まさに陸の孤島でした。その後しばらく礼拝出席３～４名の時代が続き、沢山の労苦がありましたが、教会には温かい交わりがありました。野村牧師と妻の永子（ひさこ）さんは献身的なお働きをされ、一人一人を大切にする教会形成をされました。そして地道な宣教とたんぽぽ幼児園のユニークな教育により、次第に教会は地域に認知されるようになりました。現在は賑やかな地域となり、幹線道路である下手稲通りに面して教会は建っています。

収穫感謝の集い（バザー）

さて教会創立 40 周年礼拝の直後より、50 周年をどのように迎えるか、どんな教会にしたいか教会全体で何度も話し合い、会堂建築は宣教の重要課題であることを確認しましたが具体的な取り組みには及びませんでした。しかし建物の老朽化は待ったなし！です。厳冬期の屋根からの落氷雪は道行く人の不安要素となっていたのです。また、修理箇所も年々増え、使いがっての悪さを痛感しておりました。

何とかしたいと思いつつも、礼拝出席 10 数名、会員 22 名、財政上の課題を抱える私たちにとっては会堂建築は不可能とも思える大事業であり、悩みと迷いの中にありました。

しかし不思議なことは起こるものです。神のくすしき導きと具体的に応援してくださる多くの方々の祈りと支えが、1 歩前へと押し出してくれました。やっとですが、宣教の拠点である会堂を新たにして伝道することは、教会の大切な使命であると教会員一同確信し、建築に踏み出すことができたのです。

設計者松橋常世（まつはしつねよ）さんは設計コンセプトを、教会の本来のあり方、場所性、地域性、機能性に即していること。地域住民に開かれていること。祈りと交わりの空間であると挙げています。「主の光」をモチーフに、「光」に向かって両手でかざす、包む、抱く、祈る、招き入れる等の言葉を手掛かりにして設計されました。

会堂は時間と共に変化する光が差し込み、明るく静謐な空間となり、自然の珪藻土の塗装によって温かい雰囲気を醸し出しています。また斜材構成も斬新な特徴です。このようにして、地域にあって存在感があり、明るく開放的な会堂が完成しました。

完成後、新来会者が来られるようになり感謝でした。また礼拝などの定例集会のほかにバザー、コンサート、講演会、近所のお年寄りを対象にした食事会、子ども集会等を、使いやすい会堂で実施できるのも新会堂ならではの恵みです。

今後は自由で楽しくひらかれた教会。みことばが生き生きと語られ、具現化する教会。訪問者を温かく歓迎し、福音を分かち合う教会でありたいと思います。そして創立当初からめざしてきた教会形成（信徒が中心の教会。社会の問題を引き受け、解決の方向を示す教会）と祈りを継承し大切にしつつ、歩ませていただきたいと願っています。

神と、祈り支えてくださるすべての方に感謝の思いを込めて！

平和を考える学習会

みことばに聴く

「不明なアーティスト」

携帯電話の機種変更をしている内に、「あの写真は、あのデータはどこにいったかなぁ」と思ったことはなかったでしょうか。昨年、初めてスマートホンを持つことになり、携帯電話ショップの職員の言われる通りに、「ガラ携」から「スマホ」にデータを移行しました。

使い方をマスターするために、いろいろとスマホを操作していたところ、「メディアプレイヤー」というアプリの中に、「不明なアーティスト」という見慣れないデータを見つけました。そのときは使い方をまだマスターしていなかったので、とりあえずそのままにしておきました。

ある時、教会学校の教師の集まりで、子どもたちに「神の栄光を現わす」ということをどう分かりやすく伝えたらよいか、という話になりました。わたしは、その時のある方の「『神さまを大きくする』という言い方がよいと思います」という発言が今も忘れられません。

47 節「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます」。この「あがめる」のラテン語聖書の言葉「マグニフィカート」が、伝統的にこの「マリアの賛歌」の名前になっています。この語には「大きくする」という意味があります。

英語で拡大鏡のことを「マグニファイング・グラス」、取っ手のついた少し大きなカップを「マグカップ」（和製英語）と言います。新約聖書の言葉であるギリシャ語「メガノール」も「大きくする」という意味をもちます。メガトンパンチとかメガホンのメガです。

つまり、「主をあがめる」というのは「主を大きくする、主の恵みは大きい」という内容を含んでいます。マリアは何よりまず、「主は大きい、主の恵みは大きい」と声をあげたのです。

主は大きい、主の恵みは大きい。何に比べて大きいのでしょうか。48 節「身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださった」

そこで、マリアは言った。「わたしの魂は主をあがめ、わたしの霊は救い主である神を喜びたたえます。身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです。今から後、いつの世の人もわたしを幸いな者と言うでしょう、力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。その御名は尊く、その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます。主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし、身分の低い者を高く上げ、飢えた人を良い物で満たし、富める者を空腹のまま追い返されます。その僕イスラエルを受け入れて、憐れみをお忘れになりません。わたしたちの先祖におっしゃったとおり、アブラハムとその子孫に対してとこしえに。」

（ルカによる福音書　1章 46 節～ 55 節）

うらべ　やすゆき
卜部　康之
千歳栄光教会牧師

と。自分は小さいけれど、主は大きい。「この小さい者に目を留めてくださる主の恵みは大きい」と歌っています。

この「身分の低い」を佐藤研さんは「そのはしための悲惨を顧みて下さった」と「悲惨」と訳しています。小さい者に目を留めてくださるということだけでなくて、小さい者の「悲惨」を顧みてくださる、と言うのです。マリアの困惑や不安をわかってくださる主という意味に理解できます。

わたしたちの中で、神さまが小さいときとは、それに反比例して、自分自身が大きくなっているときではないでしょうか。自分が大きいと、傲慢になります。物が大きいと、享楽に走ります。他人が大きいと、劣等感におちいります。

51 節以下には、「思い上がる者」「権力ある者」「富める者」が登場します。主はそういう思い上がる者を打ち散らし、弱い立場の者を顧みてくださる。マリアは、権力ある者よりも主は大きいと声を上げています。

「マリアの賛歌」から、わたしたちは何を学ぶことができるでしょうか。自分たちを押さえつけようとする力よりも主の顧みは大きい、という勇気と希望を読み取ることができます。

「ウィルスだったら、どうしよう」と思いながら、思い切って「不明なアーティスト」を再生しました。すると、当時幼稚園児だった長女が「パパ、だい、だい、だ〜いすき！またいっぱい、あそんでね。おやすみ〜」と。見慣れない怪しいデータの正体は、帰りの遅い父親の携帯の留守電に入っていた音声でした。

わたしたちは苦しいとき、ひとりきりで、もがき苦しんでいるような気持ちになってしまいます。また、苦しいときとは、自分の小ささや醜さ、至らなさを痛感させられているときでもあります。

アドヴェントを迎えました。今年も各教会・伝道所・幼稚園・センターに、各家庭に、各職場に、主の「大きな恵み」がきっとあると信じています。

［ 教会案内 ］

千歳栄光教会　（苫小牧地区）

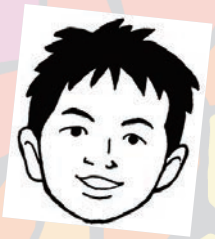
主日礼拝　午前 10 時 30 分

最寄駅　JR 千歳線・千歳駅

特集

座談会　NEXT 北海教区

聞き手



きむらたくみ
木村拓己
美唄教会
広報委員長・教区書記

こにしようすけ
小西陽祐
余市教会
宣教部委員長

はら　かずと
原　和人
札幌富丘伝道所・手稲はこぶね教会
宣教部副委員長・副議長

ひむかいきょうじ
日向恭司
教区幹事

似顔絵：しおやますみ 塩谷真澄

広報委員会は、北海教区の宣教に連なり、 またそれらを発信する働きを担っています。

今回、北海教区の宣教の要である宣教部委員会に取材を申し入れたところ、快く「座談会を行いましょう！」との回答をいただき、実現しました。

この座談会のポイントは…　ズバリ！　教団常議員会による不在を狙い、議長抜きで秘密裏に行われたことでしょうか！（注：嫌がらせではありません、たまたまです）。

ということで、北海教区での働きを担う方々、また議論を支える教区幹事をお招きして行いました。

それでは、ごらんください。　（広報委員長　木村拓己）

木村

北海教区の牧師たちは、少しずつ若い世代に変わりつつあります。世代交代の中、今回は「私たち北海教区がどのように歩んでいくか」をテーマに考えたいと思います。

日向

小西さんは着任 10年目ということですが、まだ若い世代といえるでしょう。今そうした世代が教区の働きを担っています。また招聘を準備してる無牧師教会も多くあり、来年度には新たな仲間も加わりそうです。そうした中、北海教区がどのような歩みをなしていくかを改めて考えることには意味があると思います。

連帯の核心

木村

より厳しい時代がやってくるでしょうが、私たちが希望をもって歩むために、これからの北海教区を担う若手の牧師にお話を聞きます。まず北海教区を一言でいえばどういう教区であるといえますか？

原

やっぱり「連帯」でしょう。その中で核となるのが謝儀保障でしょうか。加えて、北海教区ならではの特徴があると思います。それは、特定の縛りを置いて制限せざるを得ないのが一般的な教区財政ですが、その縛りをできるだけ少なくして各個教会の必要に応え

ようとするのが北海教区の姿勢で、そこに連帯の核心があると思うのです。

日向

その点でまず注目しておきたいことは、規模の如何にかかわらず各個教会・伝道所が等しく負担金を出していることです。

以前は「伝道所」であるというだけで負担金の算定にかなりの優遇措置がありましたが、今はどんなに小さな教会・伝道所でもきちんと出し合った中で分け合う形となっています。教区の宣教をみんなが担う端的な形ではないでしょうか。

新しい礼拝支援の取り組み

木村

今年度から主任担任教師不在教会への礼拝支援の取り組みが始まりましたね。

原

柱として 3つあります。まずは、置戸教会のような信徒の宣教主事の働きに教区が支援できるようにしたこと。

次に士別教会や中標津伝道所など、財政規模が小さく代務者への謝儀が過度の負担となる教会に教区が支援できるようにしたこと。最後に無牧師教会への礼拝説教者の派遣となります。稚内教会や興部教会、北見望ヶ丘教会、中標津伝道所が活用し、ここには代務者として牧師を送り出す教会への礼拝支援も含まれます。

説教者を呼ぶには主に都市部の牧師を呼ぶことになりますが、北海教区は広大なため、それに係る交通費・謝礼・宿泊費の負担は、特に小規模教会にとって非常に大きなものです。そこを少しでも教区が支援できるようにしたことは、教区の連帯がまた一歩前進したと言えるのではないでしょうか。

これは他教区ではあまり取り組めていない事柄だと思いますので、今後注目されるのではないでしょうか。

小西

北海教区では、大規模教会が小規模教会に学ぶという連帯の豊かさを感じます。最近では道北地区・道南地区の連帯において、わたしたちがキリストの体であることを実感できる証しが立てられています。士別教会や和寒伝道所、江差伝道所など、「小さなところに表される主にある喜び」が分かち合われていますね。

日向

「弱く見える部分がかえって必要なのです」という御言葉が本当に実感を持って響く三年間でした。その間に何度か台湾基督長老教会やカナダ合同教会の方々を北海道にお迎えする機会がありましたが、その交わりの中でも、「弱さを誇る」歩みについては喜びと感動をもって聞いていただけたと思います。

第 1 期の総括年度を迎えて

木村

こうした歩みにどんな意義があるでしょうか。

小西

今年は第四次長期宣教計画第 1期（4年）の総括年度を迎えました。その標語は「礼拝の喜びに生きる神の民」ですが、それを単にスローガンとして掲げただけでなく、実現してきた歩みになったと思います。

連帯の項の「厳しい状況に置かれている教会の礼拝を、豊かで力のあるものとするために…」また「地区を超えた多様な協力関係を模索し、実現する」を具体化する取り組みができたと評価できるのではないでしょうか。

そうして教区が地区の働きを促し、地域に立つ教会の働きの後ろ支えを試みる…これは革新―「礼拝を通して新たにされるために」にも密接に重なる部分です。

日向

各委員会が北海教区の宣教計画を理解して、それぞれの立場から真摯に考え続けてきたことも忘れてはならないところです。

これまで各教会の現状について、教区として把握はしていましたが、「謝儀保障」と「会堂建築等の支援」という枠組みしか持ち合わせていなかったために、対応できない部分が多分にありました。

日向

（前頁の続き）

そうした葛藤を経て生み出されてきた実りだと言えます。今まで手が届かなかった部分に、ようやく届くようになったという思いです。それが常置委員会の主導ではなく、教会の実情を受け止めた連帯部門委員会から提言されたということにも大きな意味を感じます。委員会活動が機能していることということではないでしょうか。

厳しいのは小規模教会だけではない

原

「小規模教会を支える」ということがクローズアップされますが、「中規模教会」「大規模教会」にも財政的な厳しさがないわけではありません。北海教区に来て「大が小を助ける。」ということとは違うことがわかってきました。

北海教区で大規模教会や中規模教会も貧しい思いをしている一因として、他教区に比べて負担金が大きいということがあります。本当にギリギリのところで献げられていることによって教区全体が守られているわけです。

一方で教会の規模に関係なく、どの教会も受けられる支援もあります。それは奨学手当です。高校生以上の牧師家族については、教会の規模に関わらず一律に支給されます。

2012年度から謝儀基準を大幅に下げざるを得なかったのですが、奨学手当を設けることでなんとかバランスを保ってきました。それは大枠では謝儀保障費に入っており、大規模教会も受給できる支援なのです。

あなたも連帯の輪に入っている

小西

教会の規模にかかわらず教区の支援が行き届く視点は必要ですね。

日向

他にもヒムプレイヤーや除雪機の購入に対する支援など、細かな配慮のできる支援があってもいいかも知れません。

木村

それはおもしろいですね。

そんな取り組みが果たして可能となるでしょうか？「自分でやるべき」と思う教会もありそうですが？

日向

教会が礼拝を守るために欠かせない事柄だということは誰もが理解できるのではないでしょうか。実現できるかどうかはわかりませんが、こうした議論をやめてしまうことは連帯の妨げになると思います。

皆が納得できるようにルールを決めなければなりませんが、やってみなければわからないことは、運用しながら反省しながら修正を加えていくこともできます。まずは動き出すことによって、支援を必要としている教会にも教区全体にも喜びや希望を生み出すことができるのではないでしょうか。

木村

教会と信徒の働きを阻害せず、「そんなところにも手が届くの！？」という、むしろ積極的な宣教を進めて行くための契機になるような、教会の宣教活動の底支えの役割を教区が担えるといいですね。

原

わたしもそこに北海教区の面白みがあると思います。

大抵はしっかりした枠をはじめに決めてその範囲内で行われます。しかし北海教区では少し異なり、未完成に見える部分もあるけれど、常に動こうとしていることによって、大きな教会・小さな教会・地域定期に孤立しやすい教会、いずれにあっても「自分も連帯の輪に入っている」と実感できるのではないでしょうか。

本当に出会っているか

木村

努力が積み重ねられる中で教区の連帯が進められてきたのですね。教会間のつながりが密接になってきた流れはよくわかりました。では幼稚園や学校あるいは各センターとの連帯についてはどうでしょうか。

原

教区内に立てられている多くのセンターがそれぞれに目的を持ち、これまで大切な宣教の働きを共に担ってきたことは言うまでもありませんね。

では幼稚園や学校が教区と連帯している感覚はあるかという視点ではどうでしょう。

木村

なかなか実感しづらい点ですね。私も小西先生も幼稚園長としての働きを担っていますが、それが「教会の宣教の柱」として建てられてきた実感はあっても、教区との連帯を考えるとまだまだ、これから取り組んでいく必要があるのではないでしょうか。

小西

宣教部委員会でも、幼稚園やキリスト教学校との連帯を大切にしたい願いをもってきましたが、これまで具体化できてこなかったことは事実です。幼稚園が重要な宣教の働きを担っていることを忘れてはいけませんね。

そして今、幼児教育の現場で何が課題となっているか、どんな部分に不安を覚え、またどんな希望を抱いているかを分かち合う必要があります。

原

学校側の思いとして、必ずしも教会と関わらなくてもやっていけるという雰囲気があるかもしれませんね。

小西

そう、現場のクリスチャンの先生が孤立しているケースがあると思います。関係学校でキリスト教色が薄まる傾向がある中で、なお教区が距離を置けば、キリスト教学校としての命と言える部分を失っていくと言えるのではないでしょうか。教会が宣教の働きの仲間として、学校そしてそこにいる教師や生徒たちを見過ごすわけにはいかないと思います。

まず、顔の見える関わりを作らなければなりませんね。でも果たして、現状学校が教会に期待をしてくれているのでしょうか？

日向

確かに、キリスト教主義学校の先生との出会いが求められていると思いますね。でも教会として気を付けなくてはならないことは、クリスチャンではない教員のみなさんを伝道対象として見るのではなく、キリスト教教育という福音宣教の業に携わっている同労者として出会うことだと思っています。

小西

教師と信徒、学校と教会が尊重し合える関係を築いていきたいですね。たとえ明確な形で信仰は持っていなくともプロの教師として関わっているのだから、教会は教員のみなさんに対して謙虚になるべきです。その部分で教会は異なる意見を受け止めることを拒んできたのかもしれません。

教会は「若者が与えられるように」と願いながら、身近な「キリスト教教育」を知ろうとしてこなかったように思います。

原

その部分は確かに消極的と言えますね。ある意味教会は若者を怖がっているのかもしれません。でも一方で高齢化については不安を抱いています。

その結果、高齢化に興味がいっている。しかし高齢化の課題と同時に、ならばなおさら今後は若い人との連帯について積極的に話し合っていく必要があるのではないでしょうか。

小西

教会は、同世代でない人と出会い、共に歩むことができるという点が一つの醍醐味です。高齢者も若者にも来てもらうためには、教会はそこにもっとエネルギーを費やさなければならないのではないでしょうか。

たとえば昨年の中高生春の集いにはここ２０年間で一番多い参加者でした。教区あるいは教会の周辺には多くの若者が集まっていることを教区の皆さんと共に喜びたいです。

ここ数年、教区の働きとして、一つの目的としてきたのは、中高生が「集い」の主体に

小西

（前頁の続き）
なることであり、この何年かでその流れが形になってきたと思っています。

会議になれていないため、長時間になったり回数が多くなったりしますが、若い人と付き合うっていうのはそういうことなのだと思うんです。時間もエネルギーも経済的な支えも必要ですけれど。

札青協（札幌地区教会青年協議会）や全道教会青年の集いが活動を再開したことは、教区としてもとてもうれしいことです。

この10年は内向きであったか？

小西

最後に、日向幹事に質問してもいいでしょうか。この１０年を振り返ると、北海教区の在り方として教会内の課題にエネルギーを注ぐことが教区運営の中心となってきたと思います。

もちろん必要なことであったと思いますが、その分、若手からすれば教区が内向きになってきたのではないかと感じるのですが、どうでしょうか？

日向

指摘された通り、「内向き」であった部分はあると認めざるを得ません。それは無牧師教会が増える中で、各個教会も日々の活動を守っていくことで精一杯になりがちでしたし、地区・教区としてもそれらの教会を支えることが最重要課題となったことに寄ります。

また、教区の機構改正の定着に時間がかかり、委員会活動の縮小が余儀なくされましたということもあります。委員が少人数となり、財政的にも縮小される中、なんとかその中で委員の方々が懸命に課題を担ってきました。そうした内側の体制を作る 10年であったと思います。

しかし「連帯」が、地区内の連帯から地区を超えての連帯、さらに教区を越え、教団を超えての連帯につながっていく下地を作ってきた面もあります。

30年を超えた西東京教区との宣教協約が継続されているのに加えて、兵庫教区との宣教協約の準備がなされ、台湾基督長老教会やカナダ合同教会との関係も深まり、宣教協力の可能性が具体的に話し合われています。これらは「教会」の枠組みの中ではありますが、「内向き」だけではなく「外」への広がりに可能性を模索した 10年であったと思います。

原

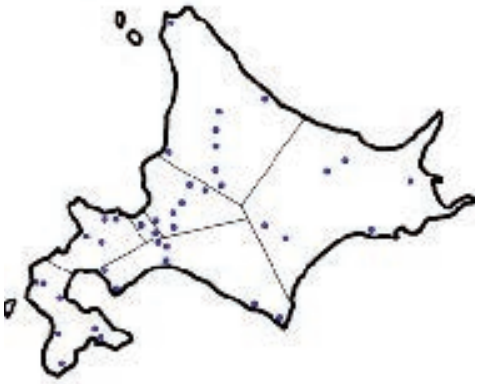
教区内の連帯をある程度結実させ、土台を作ることができました。

次のステップとしては、第四次長期宣教計画が「礼拝から社会へ、社会から礼拝へ」と掲げるように、社会とのつながりを強く意識しながら、教会の中だけではない地域社会に生きる若者や高齢者を支える働きを今後の宣教課題として担っていければいいですね。

木村

今回は「連帯」をテーマに特集記事を組みましたが、「革新」「平和」をテーマにまた特集を組めればと思います。（北海教区の皆さん、楽しみに待っていてください。）

ありがとうございました。



幹事室より

北海教区幹事　日向恭司

●各種献金のお願い

今年も北海教区の宣教活動のために袋献金をお願いいたします。センター・ホレンコ献金と年頭初穂献金以外の活動は、全てこの献金のみを財源としている活動です。一人一人が献金の意義を確認してご判断の上、お献げ下さい。

部落差別をなくす運動推進献金	11 月
年頭初穂献金	１月
靖国神社問題活動献金	２月
洞爺湖教会宣教協力募金	通年
東日本大震災支援活動募金	通年

●今後の活動予定

12 月 26 日（火）芦別祈りの家クリスマス礼拝
1 月 8 ～ 9 日（月火）年頭修養会・宣教協議会
1 月 9 ～ 10 日（火水）小規模教会協議会
2 月 23 ～ 24 日（土日）教区青年の集い
3 月　　全道教会中高生春の集い
※ 時間、場所等詳細はそれぞれの案内をご覧下さい。

● 2017 年度の常置委員会日程

⑤ (2018)1 月 23 日 (火)　⑥ 3 月 20 日（火）

※ 委員会報告書、各種の承認申請は常置委員会の一週間前をめどにご提出ください。

教区幹事の仕事② 「教区事務所」の仕事

「北海教区幹事」といえば「北海道中の教会を巡回している。」ということがイメージされるのではないでしょうか。その部分が直接教区の皆さんの目に触れる部分であり、とても重要な仕事でもあります。しかしそのほとんどが日曜日であり、平日は北海道クリスチャンセンターの 3 階にある教区事務所で勤務しています。教区内の 20 にもおよぶ委員会の陪席と委員会から依頼される資料作成、各教会への発送物の作成、日本キリスト教団事務局との連携など仕事の内容は多岐にわたり、期日に間に合わないと多くの人にご迷惑をおかけするので、徹夜仕事になってしまうこともあります。それでも最近はパソコンやコピー機が多機能化して、ずいぶん仕事が効率化されました。会議の資料はわたしも初めて常置委員会に出席したときに驚いたのですが、年度末になると 1 回の会議資料で 100 ページに達することもあり、以前は事務員の佐藤さんと 2 人で夜中までかけて全ページ手作業でナンバーの判を押していました。でも今はその作業はパソコン上で少し手間をかけるだけで、わたしたちが家に帰って寝ている間に印刷が仕上がっています。

一つの悩みは、教会の牧師も同じですが事務所の仕事は特に〝絶望的〟に運動不足になってしまうことです。クリスチャンセンターの階段を一段飛ばして登ったり、ジムに通って体力作りをしながら元気で働けるように心がけています。

芦別祈りの家

キャンドルサービス・クリスマス礼拝

2017年12月26日（火）午後6時～7時

説教者：西岡昌一郎牧師
（旭川六条教会）

午後５時から夕食をいただきます。
また札幌と旭川から車を出すことができます。（札幌は朝と昼の2便）ご希望の方は教区事務所 (011-716-5334) まで、
ご連絡下さい。どなたでもご出席下さい。

常置委員会報告

2017年度第１回常置委員会議事録（抄）

日　時　2017年5月26日（金）13時30分～18時52分

場　所　北海道クリスチャンセンター301・302号室

出席者　久世そらち（議長・札幌北部）、原和人（副議長、手稲はこぶね、札幌富丘）、木村拓己（書記・美唄）、井石彰（苫小牧弥生）、小西陽祐（宣教部委員長・余市）、指方信平（札幌北光）、韓守賢（旭川豊岡）、相馬述之（札幌北光）、藤巻朋子（札幌元町）、松尾みつ子（真駒内）、ウィットマー圭子（名寄）

欠席者　なし　　**陪席者**　日向恭司（教区幹事）

審議事項

1. 前回常置委員会議事録承認の件　　可決

2. 次期北海教区幹事候補者選任に関する件（継続審議）　　継続審議

3. 第77回北海教区総会の評価（協議事項）　　教区総会実務の諸課題を検討するため、教区総会実務検討小委員会を設置した。木村拓己書記を招集者とし、指方信平委員、小西陽祐委員を選任することを可決した。

4. 第77回北海教区総会付託事項の件（継続審議）　　継続審議
第78回定期総会を2018年4月30日～5月1日と仮承認した。

5. 第77回北海教区総会決議執行に関する件（継続審議）　　可決
⑴ 第四次長期宣教計画に基づく2017年度活動計画に関する件（議案第７号）→宣教部へ付託した。
⑵ 2017年度教区歳入歳出予算（付：分担金配分）に関する件（議案第８号）及び2017年度教職謝儀基準改定に関する件（議案第９号）→財務部委員会へ付託した。
⑶ 主任担任教師不在教会の礼拝支援に関する件（議案第16号）→連帯部門委員会へ付託。運用窓口は教区幹事とし、当面常置委員会で責任を持つこととした。小規模教会支援検討委員会を解散した。
⑷ 兵庫教区との教区間宣教協約締結への取り組みを開始する件（議案第19号）→三役が窓口となり、常置委員会で審議することとした。
⑸「テロ等組織犯罪準備法案」（共謀罪法案）に反対する行動を推進する決議に関する件（議案第20号）
⑹ 憲法改正に反対し、これを阻止するための行動を推進する決議に関する件（議案第21号）
⑺ 北海道電力泊原子力発電所の再稼動の中止、及び廃炉に向けての行動を推進する決議に関する件（議案第22号）
⑻ 天皇の代替わりにともなう即位儀式に際し、憲法の国民主権の趣旨に反する儀礼を行わず、政教分離に違反して大嘗祭を国の行事として行わないことを要請する決議に関する件（議案第23号）
⑼ 安倍政権が強行する沖縄の米軍新基地建設を断固阻止するための行動を推進する決議に関する件（議案第24号）
→⑸から⑼まで平和部門委員会へ付託することとした。
⑽ アイヌ民族の権利を回復する運動の推進決議に関する件（議案第25号）→アイヌ民族情報センターおよび平和部門委員会へ付託することとした。

6. 第四次長期宣教計画第１期中間総括に関する件（継続審議）　　継続審議

7. 教師検定試験受験者推薦承認に関する件（含、面接）　　可決

8. 教師検定試験受験費用援助申請に関する件　　可決

9. 議長書簡の件　　可決

10. 札幌教会との関係回復に関する件　　継続審議

11. 名寄教会の宗教法人第23条および教会規則第27条による申請（牧師謝辞辞任）に関する件　　可決

12. 留萌宮園伝道所の開拓伝道資金給付申請（100万円）に関する件　　可決

13. 岩見沢教会の開拓伝道資金給付申請（100万円）に関する件　　可決

14. 岩見沢教会の開拓伝道資金短期借入申請（700万円）および利子補助申請に関する件　　可決

15. 渡島福島教会の開拓伝道資金短期借入申請（50万円）および利子補助申請に関する件　　可決

16. 置戸教会の教区援助費給付申請（60万円）に関する件　　可決

17. 士別教会の教区援助費給付申請（24万円）に関する件

18. 2017年度常置委員会開催日程の件　　可決
第５回までは午後１時30分、第６回のみ午前10時30分より開催。
第１回：５月26日（金）　　第２回：７月18日（火）
第３回：９月19日（火）　　第４回：11月21日（火）
第５回：2018年１月23日（火）　第６回：３月20日（火）

2017年度第２回常置委員会議事録（抄）

日　時　2017年7月18日（金）13時32分～17時47分

場　所　北海道クリスチャンセンター301・302号室

出席者　久世そらち（議長・札幌北部）、原和人（副議長、手稲はこぶね、札幌富丘）、木村拓己（書記・美唄）、井石彰（苫小牧弥生）、小西陽祐（宣教部委員長・余市）、指方信平（札幌北光）、相馬述之（札幌北光）、藤巻朋子（札幌元町）、松尾みつ子（真駒内）、ウィットマー圭子（名寄）

欠席者　韓守賢（旭川豊岡）　　**陪席者**　日向恭司（教区幹事）

審議事項

1. 前回常置委員会議事録承認の件　　可決

2. 次期北海教区幹事候補者選任に関する件（継続審議）　　継続審議

3. 第77回北海教区総会付託事項の件（継続審議）　　継続審議
⑴ 第77回定期総会議事録承認に関する件（議案第28号）継続審議
議事録案を配布した。議事録精査委員に井石彰委員、相馬述之委員を選出した。
⑵ 各部委員選出に関する件（議案第14号）　　可決
連帯部門に指方信平（札幌北光）、平和部門に野田祥（札幌北光）、宣教研究委員会に稲村隆（旭川六条）の委員就任を承認した。

4. 札幌教会との関係回復に関する件（継続審議）　　継続審議

5. 第四次長期宣教計画第１期中間総括に関する件（継続審議）継続審議

6. 2017年度日本基督教団譜謌町教会「宣教活動協力資金」受給申請に関する件　　可決

7. 2018年度教団伝道資金申請に関する件　　可決

8. 岩見沢教会の「会堂・牧師館改修工事事業支援献金のお願い」に関する件　　可決

9. 宗教法人日本基督教団芦別教会責任役員変更に関する件　　可決
常置委員会より小西陽祐を推薦することを可決した。

10. ディヴァン・スクルマン宣教師の任期更新に関する件　　可決
ディヴァン・スクルマン宣教師の任期更新（2018年３月～2021年２月）の申請を可決した。またこれまでの働きを総括することとし、この点については新たな議案を起こすとした。

平和部門　第2グループ

「知事は日本にとってよろしくない。いずれ抹殺する」

―これは事件の核心を暴露する検事のことばである―

「知事抹殺の真実」上映会報告

谷百合子（新発寒教会）平和部門委員

10月24日札幌エルプラザにて、北海教区平和部門をはじめ40団体・個人の賛同を得て、映画上映会を開催しました。400名近い参加があり対処に追われながらも、この事件への関心の高さに感謝です。

収賄金0円。しかし有罪と言う不可解な判決

2006年9月、5期18年に渡り、県民と共に福島県を築いてきた佐藤栄佐久元知事は、何者かが作り上げた「謎の収賄事件」によって突然の辞任、そして逮捕と言う状況に見舞われました。取り調べの中で無実を訴えますが、弟さんは毎日3時間の睡眠時間と言う拷問のような取調べを受け、身内に自殺未遂者が出た事で、栄佐氏は虚偽の自白をする決心をします。

真実は無罪

裁判中で知事の無実は明白になって行きます。栄佐久氏が信じていた土木部長が虚偽の申し立てをしていました。側近の部下や企業にも、白を黒と言いくるめる巧妙な取り調べが明らかにされましたが、結果は有罪。最高裁上告も棄却されます。心を癒すための散策中、劇的なシーンがあったそうです。栄佐久氏夫妻と土木部長夫妻が山中でばったり出会ったのです。その時栄佐久氏は無言で彼を許すのです。「彼もまた被害者なのだ。もっと悪い力が背後にあるのだ」と。

アエラをはじめ殆どの報道関係が知事の収賄ありの報道をした

殆どのマスコミは知事逮捕を有罪ありきで報道し、無罪が明白になった今でも、当時の報道内容の反省はありません。私は2年前、仲間と1910年の大逆事件を追跡した「100年の narrow（こだま）」を上映しましたが、あの時の狂気に似たものを感じます。

知事は何故政治生命を断たれたか

栄佐久氏は知事に就任してすぐ原発政策の虚偽に思い至ります。県民の命を守るためあらゆる手段を講じて東京電力と国に対峙して行きました。福島の多くの人達が言っています。「知事がもう1期長くいてくれたら津波対策は取られていた」と。

安孫子亘監督と橋本祐樹弁護士のお話。

安孫子監督はこの裁判の真実を知ってもらうため沖縄から北海道まで、全国で上映したいのでご支援をお願いしますと話していました。橋本弁護士からは東京地検特捜部の描いた収賄罪のシナリオの問題点について詳しい説明があり映画の内容が深まりました。

この映画の問いかけるもの

知事の突然の辞任、逮捕、関係者への事情聴取、そして裁判。ここに至るマスコミの報道。佐藤栄佐久元知事の証言は、これらの作られたシナリオの真実を明らかにしていく。つくられたシナリオの背後にある闇の力は何かをこの映画は問いかけている。

北海教区平和部門主催「沖縄と連帯するツアー」

2018年1月15日（月）～
18日（木）3泊4日

費用　75,000円（教区より補助あり）

締切　12月13日（水）

申込先　北海教区事務所

お問い合わせ先　板谷（北海道クリスチャンセンター　011-736-3388）

2017年度北海教区総会にて「安倍政権が強行する沖縄の米軍新基地建設を断固阻止するための行動を推進する決議に関する件」が決議されました。今回平和部門では、その行動の一つとして沖縄と連帯するツアーを企画しました。特に沖縄に行ったことのない方、健康に自信のない方も大丈夫です。この機会にぜひ沖縄にご一緒しませんか？辺野古・高江の応援に行きましょう。

大丈夫か！？ 北海道

～小学校道徳教科書採択結果から～

柴田もゆる（函館千歳教会牧師　平和部門委員）

2018 年度から使用される小学校道徳教科書　今夏、2018 年度から使用される小学校道徳教科書の採択が行われました。道徳の教科化に伴う初の採択でした。

そもそも道徳の教科化（教科として位置づけられることにより、教材も教科書となり、学習結果が評価されることになる）自体が問われるべき事柄なのですが、紙数の関係でここでは踏み込まず、教科書採択に絞って書くことにします。

今回、採択の対象となったのは、検定に合格した８社の教科書です。文部科学省は道徳教育の中心に愛国心を位置づけ、検定において、日本の伝統文化にそぐわないとして「パン屋」を「和菓子屋」に変更させるなど、数多くの検定意見をつけました。

問題の多い教育出版　８社の教科書の内容が明らかになると、教育出版の教科書の監修、執筆者に貝塚茂樹氏（武蔵野大学教授）、柳沼（やぎぬま）良太氏（岐阜大学大学院准教授）など、日本教育再生機構（八木秀次理事長）のメンバーで、育鵬社の道徳教科書（パイロット版）の関係者でもあり、日本最大の右翼団体と言われる日本会議とも関わりを持つ人物が名を連ねていることが判明しました。教科書の内容も、本文と関係なく安倍首相や野田東大阪市長ら現職政治家の写真を掲載したり（他社にはない）、征韓論を唱えた西郷隆盛を３年生用と６年生用で取り上げるなど、問題の多いものです。自民党の赤池まさあき参議院議員が、各社の教科書を読んで愛国心の扱いが不十分だとした上で「唯一教育出版本だけが及第点」と自らのブログで述べていることからも、この教科書の性格を知ることができます。

今回育鵬社は道徳教科書を出版することができず、その代わりに教育出版の執筆陣に人材を送り込み、その目的を果たそうとしたのではないかと推測されます。来年採択される中学校道徳教科書も８社が検定申請している（４月 29 日付産経ニュース）ので、もしかすると中学校用も育鵬社は出版せずに教育出版が肩代わりすることになるのかも知れません。

教育出版、道内が突出　今回教育出版を採択したのは全国で 34 地区（子どもと教科書全国ネット 21 調べ、9/22 現在）、残念なことに北海道は資料の通り 23 地区中８地区と突出しています。他地域にみられるような右派の運動や首長の介入があったかどうか判然としません。教育出版が「普通の」教科書会社であり、北海道では他教科の教科書で一定のシェアを持っていることや、唯一アイヌ民族に関する記述があることなどが主たる理由であったのかも知れません（北海道が狙われたと考えることもできるかも知れません）。

いずれにしてもこの結果は、来年の中学校道徳教科書採択に大きな影を落としています。今回の採択の背後にある状況を調査し、早めに備える必要を感じています。

採択に市民の監視を　その方途として情報公開請求（今回の分についてです）は有力です。教育委員会の会議録、選定資料、調査資料、採択地区協議会の会議録（二つ以上の自治体を含む場合）など教科書採択に関わるすべての行政文書の開示を求めることで、誰がどのような形で意思決定に関わったか、どのような方向性で採択が進められたかなどを知ることができます。分析まではできかねるという場合でも、情報公開請求をすることで、市民が監視しているというサインを出すことができます。各地の様々な取り組みで、この流れを押し戻しましょう。

（資料）小学校道徳教科書　北海道内の採択状況

1，石狩管内　光村図書（江別市・千歳市・恵庭市・北広島市・石狩市・当別町・新篠津村）

2，渡島管内　教育出版（北斗市・松前町・福島町・木古内町・知内町・七飯町・森町・鹿部町・八雲町・長万部町）

3，檜山管内　日本文教出版（江差町・厚沢部町・上ノ国町・乙部町・奥尻町・今金町・せたな町）

4，後志管内　教育出版（余市町・仁木町・古平町・積丹町・岩内町・共和町・蘭越町・黒松内町・寿都町・倶知安町・京極町・喜茂別町・ニセコ町・赤井川村・島牧村・神恵内村・泊村・留寿都村・真狩村）

5，空知管内　教育出版（夕張市・美唄市・芦別市・赤平市・三笠市・滝川市・砂川市・歌志内市・深川市・南幌町・上砂川町・奈井江町・由仁町・長沼町・栗山町・月形町・浦臼町・新十津川町・妹背牛町・秩父別町・雨竜町・北竜町・沼田町 ）

6，上川管内　光村図書（士別市・名寄市・富良野市・当麻町・比布町・上川町・東川町・美瑛町・和寒町・剣淵町・下川町・愛別町・鷹栖町・東神楽町・上富良野町・中富良野町・南富良野町・美深町・中川町・幌加内町・音威子府村・占冠村）

7，留萌管内　教育出版（留萌市・増毛町・小平町・苫前町・羽幌町・遠別町・天塩町・初山別村）

8，宗谷管内　東京書籍（稚内市・浜頓別町・中頓別町・枝幸町・礼文町・利尻富士町・利尻町・豊富町・幌延町・猿払村）

9，網走管内　光村図書（網走市・北見市・紋別市・美幌町・津別町・大空町・斜里町・清里町・小清水町・訓子府町・置戸町・佐呂間町・遠軽町・湧別町・滝上町・興部町・雄武町・西興部村 ）

10，胆振管内　光村図書（ 登別市・伊達市・壮瞥町・豊浦町・洞爺湖町・白老町・厚真町・安平町・むかわ町）

11，日高管内　教育出版（日高町・平取町・新冠町・浦河町・様似町・えりも町・新ひだか町）

12，十勝管内　　東京書籍（芽室町・清水町・新得町・鹿追町・士幌町・上士幌町・音更町・幕別町・池田町・本別町・豊頃町・浦幌町・広尾町・大樹町・足寄町・陸別町・中札内村・更別村）

13，釧路管内　教育出版（厚岸町・浜中町・
標茶町・弟子屈町・鶴居村・白糠町）

14，根室管内　　教育出版（根室市・別海町・
標津町・中標津町・羅臼町）

15，　札幌市　光村図書

16，　函館市　　日本文教出版

17，　旭川市　日本文教出版

18，　小樽市　光文書院

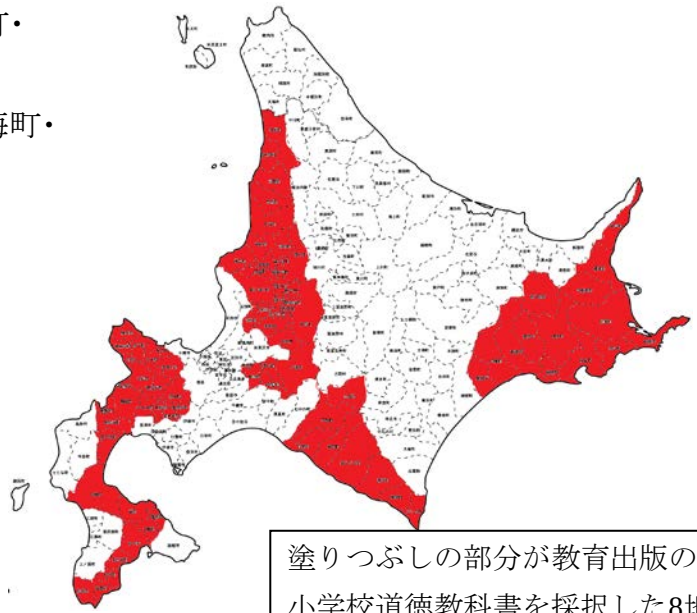
19，　室蘭市　光村図書

20，　釧路市・釧路町　　教育出版

21，　帯広市　東京書籍

22，　岩見沢市　光村図書

23，　苫小牧市　東京書籍



塗りつぶしの部分が教育出版の小学校道徳教科書を採択した8地区です（全道23地区中）。

「第１３回 部落解放全国会議」報告

報告者：韓 守賢（平和部門委員／旭川豊岡教会）

６月２６日～２８日、於 千歳栄光教会

２０１７年６月２６日から２８日にかけて、「第１３回日本基督教団 部落解放全国会議 in 北海道」が、「今、アイヌモシリで差別を考える」という主題のもとに、千歳栄光教会にて開催され、９７名の参加者があった。

一日目。部落解放センター活動委員長の斎藤成二さんによる基調報告では、部落差別事件が頻発している現状が分析された。部落解放への思いを新たにし、あらゆる差別と闘うための連帯へのアピールがなされ、参加者全員で「全国水平社宣言」を唱和した。北海教区アイヌ民族情報センター主事の三浦忠雄さんによる講演では、アイヌ民族の文化や歴史に関する概論的な説明がなされた。和人によるアイヌ民族への収奪の歴史を見逃してはならない。現在も存在するアイヌ民族への差別、北海道大学などによるアイヌ民族の遺骨盗掘、アイヌを先住民族として認めた日本政府の政策不履行なども説明された。カナダ合同教会隠退教師のロバート・ウィットマーさんによる聖書研究では、カナダ先住民族との出会いによりご自身の聖書の読み方が深くなったと語られた。弱さに招かれるということは、自分を否定するのではなく、神の力を知ることであるというメッセージから深い示唆を与えられた。

二日目。全人口の７割がアイヌ民族である二風谷にてフィールドワークが行われ、二風谷ダム裁判について学んだ。また、アイヌ民族党の代表である萱野志朗さんからは、過去を踏まえ未来を切り拓くためにアイヌ民族が行っておられる活動が紹介された。部落解放同盟栃木県連合会執行委員長の和田献一さんからの講演では、マイノリティの人権を国際人権基準から考えることの重要性が明快に示された。この学びを私たちは実践に生かさなければならない。

三日目。今後の実践への展望について皆で話し合った。豊かな出会い、学び、祈りの時が持てたことに感謝したい。

「宋富子さん講演／旭川８．１５平和祈祷会」報告

報告者：齋藤 開（美馬牛福音伝道所／旭川星光伝道所）

８月１５日、於 旭川豊岡教会

宋富子さん（アリラン文化センター副理事長）を講師に「愛する時、民族差別の無い平和が創られる」と題して平和祈祷会が行われた。また、８月３日の和寒伝道所での礼拝においても同様の講演が行われた。開会礼拝の松坂克世牧師（日本バプテスト連盟旭川東光キリスト教会）の「レッツ・メイク・ピース・トゥギャザー」と題した説教が語られ、私たち一人ひとりの平和に対する姿勢が問われた。

宋富子さんは冒頭に「一生のお願いです。民族差別のない平和を作るための『信友（しんゆう）』になってください」と会衆に語りかけられ、自身の経験を語られた。

宋さんは小学生の時に朝鮮人であることで激しい差別を受けた。以来自分の素性を隠し、自分の命を呪い、痛みと孤独を味わってきたと語られた。仕事についても朝鮮人であることが周りに知れると、転職せざるを得なかった。朝鮮人であることが分からないように、「日本人」になろうと自分を押し殺してきたのである。

川崎での李仁夏牧師との出会いが宋さんの生き方を変えることになった。そこでは、ありのままの自分を表現することができた。そして「隣人を自分のように愛しなさい」という聖書の言葉と出会い、彼女は、「差別をなくし、平和を作る」ために生きる人となったのである。

歴史がねじまげられ、ヘイトスピーチが公然となされる現代において、正しい歴史を教え、差別をなくすために宋さんは今も「命がけで」活動をしておられる。また、「正義はつくるもんや」とも語られ、私たちの有り様を問われた。

本来ならば、正しい歴史を語らなければならないのは私たちであり、現在も残る法律や制度による差別、そしてヘイトスピーチを解消していかなければならないのは、私たち「日本人」である。私たちは他者の「痛み」を聞くだけで終わってはいけない。私たちが自ら平和を作っていかなければならないと感じた。

和寒でも語る、宋富子さん

外キ協「全国協議会」のお知らせ

日　時　２０１８年２月１日（木）13:30～２１日（金）17:00

会　場　北海道クリスチャンセンター

テーマ：アイヌモシリから多民族・多文化共生の天幕を広げよう

「第１回 マイノリティユースフォーラム in 大阪」報告

９月３日～６日、於 大阪ＫＣＣ会館、主催：マイノリティ宣教センター

報告者：野田 祥（平和部門委員／札幌北光教会）

記念すべき第１回マイノリティユースフォーラムのテーマとなった場所は、奈良県出身の私でも何度か遊びに行ったことのある大阪の町であった。しかし、この町の歴史的背景を知ることで、現在に残され、未来に残してはいけない課題を思い知らされた。

１８８３年、大正区に国内初の民間紡績工場である「大日本紡績三軒家 (さんげんや) 工場」が操業を開始した。その労働力として多くの沖縄人女性が故郷を離れ、女工として職に就いたことから始まる。その後、第２次世界大戦前から戦後かけて、インフラの整備や経済成長によって労働力を多く必要としていた大阪で、多くの沖縄人女性・男性が劣悪な住居環境であったにも関わらず、大正区に住み込みの労働者として大阪を支えていたのである。

韓国の人々が日本へ移り住まざるを得なかった理由は、1910 年の韓国併合にある。所有権が認められない農地を朝鮮総督府に接収され職を奪われた農家の人々が、産業・工業化を進める日本へ職を求めてやって来た。第２次大戦後、韓国へ戻った人々もいたが、大多数は帰る機会を失い、日本での生活を余儀なくされた。

沖縄、韓国からやって来た人々は、日本の社会に溶け込むために、日本人から差別や虐めを受けないために、その名字を日本風の読み方に変え、また自分たちが元々使っていた方言や言語を封印した。それは自分らしくあること、自分が自分であることを放棄させるという、日本人の差別意識が強いた暴力である。このユースフォーラムは、「マイノリティ (少数派)」に焦点を当てている。第１回目の標語は、「私たちはひとりだ、でも孤独ではない」である。社会において少数派とされる人々であっても、確かにこの地上で生きるひとりとして認め合う社会をこれからも私たちは目指さなくてはならない。個を個として尊ばない社会は、常に差別や偏見の恐怖に怯え、孤独を感じずにはいられない社会である。私たち一人一人は、差別を受けている隣人に、何が出来るのだろうか。

「星野文昭さん冤罪に関する学習会 ～渋谷事件について」報告

１０月１２日、於 教職講座　１０月１３日、於 北海道クリスチャンセンター

報告者：伊藤 英治（平和部門委員／月寒教会）

星野文昭の冤罪事件を教職講座学習会、平和部門主催学習会と２日間に渡って設定していただいた事に感謝いたします。特に教職講座の中での学習会は北海教区に赴任された若い牧師先生方に知っていただく機会をいただいた事に感謝いたします。

学習会では、事件の内容をＤＶＤによって観ていただきました、この事件は１９７１年１１月１４日沖縄返還協定批准阻止行動の一環として行ったデモ行動が機動隊と衝突、機動隊員が殴打され、火炎弾で大火傷をし翌日死亡した事件です。星野文昭さんは政治犯として逮捕されたのではなく、巡査を殺害した実行犯として逮捕された冤罪事件です。物証もなく６名の未成年の共犯者とされた若者の証言だけです、六名の証言者の内、五名は証言を強要されたとして公判で翻しています。もう一人は黙秘しています。星野文昭さんは現在無期懲役囚として投獄４２年、徳島刑務所収監３０年になります。

月寒教会との関わりは、星野さんのご両親、三郎さんと美智恵さんは文昭さんが死刑の求刑を受けた時１９７９年に月寒教会に通い始め、定家牧師から洗礼を受け教会員になられました。この冤罪事件は教会員の家族の問題として位置づけて取り組んでいます。特にお母さん美智恵さんは教会員としても積極的に働き、皆から好かれる存在でした。その姿勢に共感し、多く方の支援をいただきました。私達お母さんを取り巻く一人一人は美智恵さんの苦しい戦いを見てきました。その美智恵さんは２００７年に天に召されました。もうそれから十年になります。

私達、北海道星野文昭さんを救う会は美智恵さんの意志を引き継いで戦っています、星野文昭さんの現状は収監３０年問題があります。この問題は無期懲役囚が収監３０年を越えると刑務所所長が更生保護委員会に仮釈放の審査を要請する、又は更生保護委員会が法的義務において審査を行う、と定められています。私達はいま星野文昭さんの仮釈放を要請しています。北海教区の皆様にもご支援をよろしくお願いいたします。

長年、訴えてきた、伊藤英治さん

北海教区　教職講座（10 月 10 日～13 日）

「福音宣教を共に担うために」−教団『戦責告白』50 年−

「教職講座」とは？

北海教区の教職者たちの研修会です。3 泊 4 日という、ゆったりとした時間をとって行われます。北海道の広大な地域に散在する教会、センター、学校などに仕えて働く教職者たちが、一年に一度、じっくりと時間をとり、研鑽と交流、相互牧会の時を過ごしながら、牧会者・宣教者としての自分たちを見つめ直して充電します。また、同僚の牧師たちと出逢い、互いに耳を傾け、理解と祈りを共にして、北海教区という現場で共に連帯する思いを深めます。この研修を通して、教職たちの問題認識が養われ、それによって宣教のエネルギーを新しくされる恵みのひと時です。今回の参加者は 50 名あまりでした。託児が可能なので、夫婦教職も参加しやすくなっています。

「教団 戦争責任告白」 50 年

5 月の北海教区総会では、ことしが「日本基督教団戦争責任告白」50 年なので、教区として何らかの取り組みを求める意見が出されました。このため今回の教職講座では、小海基（こかいもとい）牧師（西東京教区・荻窪教会、「時の徴（ときのしるし）」同人）を主題講師にお招きして、お話を聞きました。小海牧師は、教団の戦争責任告白を、いわゆる「自虐史観」として結論づけようとする考え方を批判されました。そして以下のボンヘッファーの言葉を引用しました。

「教会の罪の告白を蔽い隠したり、駄目にしたりする者は、キリストに対して絶望的な形で罪を犯すのである。・・ただキリストによって裁かれた人間としてのみ、堕落した人類は、キリストの前に立つことができる。」

この「戦責告白」は、その後の日本の各派の罪責告白に大きな影響と刺激を与えました。一方で教団内では「戦責告白」の精神の「風化」が指摘される中、この告白制定の意義は、今日一層明確化されているのであり、今後、教団が「告白形成型」の教会として、福音宣教を共に担うためにこそ、新しい言葉でなされる「罪責告白」への展望を示されました。

この他にも、盛りだくさんな課題が

北海教区東日本大震災支援委員会から、東北・奥羽教区での支援活動と現状についての報告、ハラスメント防止委員会からはズィビー・パスカルさん（マインドコントロール研究所）の「霊的ハラスメント」の実際とその防止についての講演を聞きました。また、今年は渡辺兵衛牧師による「自分史」、グループ別の聖書研究による「祈祷会」、さらに「牧会伝道の現場から」3 名の牧師たちの教会における高齢信徒たちの現状と課題についての発題とグループ懇談、アイヌ民族情報センターの時間として樺太アイヌ（エンチウ）として生きてきた女性のお話、平和部門委員会からは星野文昭さんの冤罪に関する取り組みのお話など、盛りだくさんな課題について考えました。

毎年、教職講座の機会には、ぜひとも教会から牧師を送り出してあげて下さい！

参加者からの感想です。

今年度で 2 回目の女性教職の分かち合いは、ありがたい時間だなと思います。他教区と比べて純粋に人数が多いこともありますが、こんなに頼もしい先輩方がたくさん居て、しかも忌憚なく語り合えるという環境は先々当たり前にあるとは思えないので、とっても幸運なことと思って、その時を過ごさせて頂いています。

「罪の告白においてキリストが突入する」というボンヘッファーの言葉がとても印象的でした。戦責告白は、まさにキリストが突入された出来事であり、その意味において「摂理」と言えるのだと思う。

「讃美歌 21」がこの戦責告白の視点から編纂されたことを聞き、興味深かった。

台湾、韓国、カナダ、アイヌ民族など多様な人たちと共に告白できる信仰告白が北海教区にできたらいいなと思いました。

日々の教会での生活の中で困ったなと思ってることがあったけれど、同じようなことで悩んだことのある先生がおられることに励まされました。根本的な解決方法が見つかったわけではないけれど、大先輩も悩んできたことなんだと思うと心が少し軽くなりました。ありがとうございます。祈りつつ歩んでいこうと思います。

自分たちは変わることなく、相手だけに変更を迫る教会の有り様が問われている。「教会はこうあるべき」を脱却しなければと思う。

「神の摂理」を自己肯定のために利用してしまう問題を考えさせられた。

パスカルさんのお話を聞いて、教会で牧師と信徒との間で起こったハラスメントの「何で？」が解けました。

「一緒になやむ　受け入れる
一緒に声をあげる」その大切さを改めて学んだ 4 日間。普段は、限られた時間の中でしか互いに語り合えないけれど、非日常の空間の安心できる場で悩みをうちあけ、聴き、共に考える‥この教職講座で荷をおろし、お土産ももらって自分の場所に帰っていけると、今年も感じました。

同じ「罪責感」でも、ハラスメントによって押しつけられる罪責感というものがある。

過去の歴史を正しく受け止めること、今何が起こっているかを、きちっと受け止めること‥そのことが今、とても大切になっている。

罪に気づく純粋さ。罪を認める謙虚さ。罪を公に告白する勇気。罪を犯さない決意。→赦しの希望。

北海教区宣教部連帯部門委員会
収穫感謝の集い

「脱穀場までドライブ。新米が出来るまで！を聴いてきます。」

10 月 7 日（土）午前 9 時～午後 4 時「収穫感謝の集い」が開催されました。開会礼拝、オリエンテーション後、すぐに「農園おりざ」（利別教会員横山家）に移動しました。ここでは、米作りについて、1 年間の農作業について説明を受けました。八十八と書いて、米と読みますが、88 以上手をかけて精魂込めてお米を作っていることを知り、米一粒の重みを実感しました。その後、精米の過程を実際に機械を動かしているところを見学させてもらいました。最後に、新米のおにぎりをいただきおいしさに感動しました。

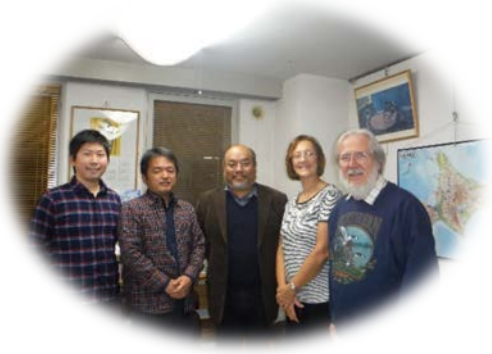
それから、ブルベリーの畑に移り、樹木の根元に米の籾殻を敷く作業をしました。

昼食後は、証しと交わりの時間をもちました。このたびは、講師を立てず、実際に酪農に携わっている次世代の担い手 4 名に証しをお願いしました。その内容は、①生産重視ではなく、家畜の持つ自然の営みを尊重して取り組むことの大切さ②クリスチャンとして時代を見極めつつ生きる姿勢について③女性として酪農にと向かい合う思いについて④神の導きと召命観が与えられて酪農と向かい合っていることが語られました。豊かな語らいの後、閉会礼拝をもって終わりました。全体で 25 名程集まり有意義な時間を共有しました。（文責　石橋隆広）

北海道三愛畜産センター前で

パティ・タルボットさん来訪

10 月 19 日、カナダ合同教会世界宣教部・アジア担当のパティ・タルボットさんが北海教区を訪問、久世議長、木村書記、日向幹事とこれからの宣教協力について話し合いました。カナダ合同教会は 1953 年から道北センターを中心にハウレット夫妻、ウイットマー夫妻を送り北海教区と道北地区との長い宣教協力の歴史があります。これからも豊かな関係を持ち続けるための具体的な方法が話し合われました。タルボットさんは「カナダ合同教会も日本キリスト教団も会員数の減少、財政的な厳しさなど同じ状況を抱えていますが、信徒が活き活きと礼拝、宣教の業を担っていく為に、それぞれの経験を分かち合い学び合う人的交流、書籍等のリソース、情報交換をしたい。またウイットマー宣教師夫妻の隠退に伴い売却された宣教師館の資金は北海教区にかかわる働きのために用いたいと考えている。その対象として北海教区から提案されたいくつかの具体的な働きは、クリスチャンとしてチャレンジングな働きであり関心を持って支援をしていきたい。」と語り、北海教区とカナダ合同教会との新しい形のヴィジョンがスタートしました。



第 37 回教会の手話研修会報告

《日時》2017 年 7 月 1 日(土)　　《講演》「イエス・キリストの理解と弟子たちの理解」
＊講師:今野善春(こんのよしはる)牧師(東洋ローア・キリスト伝道教会)
《開会礼拝》「肉となった神の言(ことば)」(聖書:詩編 19 編2～5 節、ヨハネによる福音書 1 章 14 節)
＊説教:指方信平(さしかたしんぺい)牧師(札幌北光教会)
《参加者数》80 名(ろうあ者 31 名、難聴者 2 名、聴者 47 名)

≪第 37 回教会の手話研修会報告≫　　知野久子(ちのひさこ)

今回の研修会は、座り方に工夫をしました。聴者の中に、ろうあ者が分散して座ってもらい、お隣り同志の交わりが深められるようにしました。手話が初めての人たちや、ろうあ者にとっても顔を合わせながらの会話に、あちらこちらで手話の花が開き、ふれあうことができました。

指方牧師より「教会の手話」は、そこに「神さまのみ手」を感じることができるとの励ましの言葉を頂いた。「‥声は聞こえなくとも、その響きは全地に‥」素晴しいみ言葉に改めて出会いました。

今野牧師は旭川が出身地。1964 年頃、旭川六条教会を借りて東洋ローアの礼拝がなされ、そこに出席していた。当時のことを懐かしく語られ、イエスさまとの出会いは「人生の最高の希望の発見」と、うれしそうな表情をされた。その頃、献身の決意をされ、全国を回られて 2 年前より札幌の地へ来られた。今年で 43 年目の牧会生活。講演の中で特に強調されていた「障がい者を傷つけない言葉、罪ではなく神さまの業がなされていること」を力強く証しされました。

午後からは教会手話の学びを行った。ひとつひとつの単語の意味を説明され、参加者全員の指が動きました。

これからも、ふれあうこと、知ることを大切にしながら、手話の輪が拡がっていくことを願っております。ご協力頂いた先生方に心から感謝を申し上げます。

《手話研修会に参加して》　　札幌北光教会　三浦いづみ

去る 7 月 1 日(土)、第 37 回目の教会手話研修会が開催されました。私は、3回目の参加でしたが、一昨年は同じ教会の方に誘われ、以前から手話に心が惹かれていたことから何となくの参加でした。ところが昨年から研修会準備のスタッフとして委員会に出席することになり、まったく手話の出来ない私がいつも熱い討論の中に(もちろん手話を使った)必死の思いで参加していたのが現状です。

今年も扇風機が活躍する暑い一日。80 名近い方たちが共に集まり、今野善春牧師のほとばしるような手話のメッセージに心打たれました。特に私が今年考えさせられたのは、手話が出来る、出来ないということ以前に、いつも心を開いていなければならないということです。昼食時の少しの時間、東洋ローア教会の方とお話しすることができました。友人が積極的に手話を交えて話題を豊かにする姿に感心し、臆していては心の交流が出来ない事を痛感しました。本当に小さな力ですが、これからもスタッフとして関わっていきたいと思います。

高齢化を考えるキャラバン報告

真駒内教会　秋山千四郎

2017 年 7 月 2 日(日)、「みんなの教会～教会の今、そしてこれから～」と題して、高齢化を考えるキャラバンが行われました(会場:小樽公園通教会)。

その趣旨を集会案内より引用します。「先の教区総会の分科会では、『高齢化』の課題について積極的な意見交換がなされました。『礼拝へ行くことができなくなった』『奉仕できないことが心苦しい』『礼拝説教が聞こえにくい』『将来の教会形成に不安を覚える』など、その課題は多岐にわたります。しかし、年を重ねることは『問題(プロブレム)』なのではなく、年を重ねたからこそより豊かになることもあるのではないでしょうか。これからの教会形成を自分の教会内だけで悩むのではなく、同じ教区にある教友たちと共に分かち合いながら、考えていくことができたらと思います。それにはまず、信仰の、人生の大先輩から様々な思い、希望などをお聞きすることから始めたいと思います」。

当日の主日礼拝では「シメオンとアンナの物語」(ルカ福音書)から、神の絶対評価の恵みを分かち合いました。愛餐会では、心のこもったおもてなしと楽しい交わりの時をいただきました。午後はワークショップを行い、ご高齢の信徒さんが、実際にどのような課題、不便さ、心配、そして希望と喜びを抱いておられるかを分かち合いました。

信仰が聞くことから始まるように、高齢化の課題も聞くことから始めようと、今回のキャラバンを企画しました。小樽公園通教会の皆さんと出会い、生のお声をたくさん聞くことができて感謝いたします。今後しばらくは、この「聞く」取り組みが必要と思います。一口に高齢化の課題と言っても、都市部教会・地方教会、大・中・小規模教会、無牧師教会等々、状況がそれぞれ異なるからです。一つの教会固有の課題もあれば、多くの教会に共通する課題もあることでしょう。先ずはそうした情報を集めることが必要です。

また、高齢化の課題は対象化できる課題ではありません。老いも若きも、子どもも赤ちゃんも、すべての人に直接関わって来る課題です。言葉を変えて言うなら、それは信仰継承の課題と言うことができるでしょう。問題の本質はケアではなく、信仰の継承です。信仰を受け継ぎ、引き継ぎ、バトンタッチして行くにはどうしたらいいのか……。すべての世代の信徒が当事者として、リレーの選手としての自覚をもって、この課題に取り組んで行けたらいいな、と思っています。

第 32 回 全道教会青少年夏期キャンプ報告

北海道クリスチャンセンター
島松伝道所
辻中（つじなか） 歌（うた）

今年も全道教会青少年夏期キャンプが 8 月 10 日～15 日に行われました。参加者は 9 名、大人・大学生スタッフ 11 名と例年に比べ少なめの参加でした。初参加、初スタッフ、また北海教区を超えた参加者も与えられました。

芦別祈りの家に着くと倒木、小動物による荒らし、ヒグマの通り道といったミッションが待ち受けていました。「こんなところで生活できるの？」という不安の声もありましたが大掃除をし、翌日からワークが始まりました。今年のワークは倒れた松の伐採・焼却、ビーチバレーコートの整備や草刈り、ピザ窯作り、十字架作りを行いました。中学生から大人まで参加者それぞれが役割を与えられできることをできる範囲で無理なく役に立つ、助け上手で助けられ上手なよいワークでした。

またワークの合間には炭鉱講座のフィールドワーク、伊藤大道（ひろみち）牧師の聖書研究、板谷良彦（いたやよしひこ）委員の平和の学び、野田祥（しょう）伝道師の主題講演がありました。ワークで疲れていても集中して講演を聞き、学ぶことができました。夜の分団では 8 月ということもあり平和について考える時を持ちました。主日礼拝では例年のように美馬牛福音伝道所の礼拝に出席しました。キャンプ参加者と伝道所の方あわせて約 25 名で礼拝を守り、お昼にはたいへんなごちそうで食卓を囲んでよい交わりの時となりました。

また、昨年に引き続き、大学生スタッフ主催によるレクリエーションが行われ、ジェスチャーゲームとウィンクキラーで盛り上がりました。後半のビーチバレー大会、キャンドルファイヤーも白熱し皆で真剣に学び、真剣に働き、真剣に遊びました。最後にはキャンプ全体の感想で「人が少なくて寂しかった」「例年の芦別らしさとは違っていた」のあとに、「でも楽しかった」「来年も行きたい」「高校を卒業してもいきたい」と続き、とても嬉しかったです。

今年のキャンプは初参加や部分参加の人、それまで参加者が少なかった教会からの参加がありました。芦別キャンプが 30 周年を超え広く愛されるキャンプになっていること嬉しく思います。

一方 30 周年を超えスタッフの高齢化や次の世代への参加の呼びかけも課題です。今後ますます多くの人・教会に参加してもらうため、青年・大人みんなに呼びかけていきたいです。

とはいえ、まずは無事に芦別から帰ってくることができ、ほっとしております。キャンプを行うにあたり、支えてくださったみなさま、覚えてお祈りいただきありがとうございました。

お）し）ら）せ）

〇第 2 回全道教会青年の集い
2 月 23 日(金)～24 日(土)

〇第 46 回 全道教会中学高校生春の集い
3 月 26 日(月)～28 日(水)

※詳しい案内は後日送付します。ぜひ、予定に入れてください。

行政訴訟も加わり
新ひだか町での遺骨返還裁判 始まる

さる、十月十九日、日高管内新ひだか(旧静内)町と同管内浦河町東幌別にて過去に持ち去られ、北海道大学に保管されている195体のアイヌ遺骨の返還と埋葬する墓地の提供を求める訴えを各地区に住む「コタンの会」が起こしました。新ひだか町から193体、浦河町東幌別から2体という過去の訴訟では最大の数にのぼります。

歴史的経緯

「北海道大学医学部アイヌ人骨収蔵経緯に関する調査報告書」(2013 以下、『報告書』)によると、新ひだかでの発掘は1956年7月に静内町『駅前墓地』廃止・墓地改葬に伴い、静内町依頼により北大医学部第二講座が発掘し、現在161体を所有。さらに、1972年に北海道大学医学部解剖学第一講座によって静内町『豊畑共同墓地』改葬に伴って発掘し持ち去り、現在32体を所有していると記されています。

裁判記者会見で
訴える葛野(くずの)エカシ

静内駅前アイヌ墓地改葬の記録には「十日間に160余体のアイヌ骨格を発掘することができた。・・・骨格の保存状態は良好であり、人類学的調査に使用し得るものも100余体という誠に貴重なる資料である」と、遺骨を単なる「研究材料」にしか見ていない記載がなされています。さらに和人墓地の改葬は809件おこなったが「アイヌ墓地の改葬は皆無である」と記されており、「改葬事業」とは名ばかりで、最初から研究ありきで持ち去ったことがあからさまに記されています。

問題点

当時の墓地、埋葬に関する法律では、「『改葬』とは、埋葬した死体を他の墳墓に移す」ことが義務づけられており、北大の遺骨発掘は違法行為ゆえ速やかに返還すること、また、新ひだか町は改葬すべき義務を全うするようにと訴えました(行政訴訟)。過去の裁判同様、原告らの主張はアイヌの遺骨管理権限はコタンという集団が保持しているのでコタンへの返還を求めています。

コタンの会副代表の葛野次雄(くずのつぎお)さんは記者会見で、「早く帰ってきて静かに休んでほしい」と訴え、アイヌ語でモシリコロフチ(国土を治めている女神)へ祈りを献げました。わたしたちはこの裁判をも支援し、情報提供をして行きます。

三浦忠雄
(センター主事)

センターの活動を支えて下さい！！　目標１５０万円

アイヌ民族情報センターは、遺骨返還の協力やアイヌ民族の権利回復のために幅広い活動を行っています。活動資金が大変、不足しております。どうぞ、お祈りとお支えをお願いいたします。

ハラスメント防止委員会

教会におけるハラスメントとその防止について考える

パスカル・ズィヴィー氏

（マインドコントロール研究所）

10 月 11 日、教職講座の一コマを頂き、パスカルさんに、どのような時にハラスメントが起きるのかを、体験を交えてお聞きしました。ハラスメントには、以下のものが挙げられます。

A、セクシュアルハラスメント
（性的嫌がらせ）

B、パワーハラスメント（上司が部下に職務上の地位や人間関係を利用した嫌がらせ）

C、モラルハラスメント（言葉や態度などによって心を傷つける精神的暴力）

D、霊的ハラスメント（考えるのを止め、一つの出来事に対する判断をあきらめ思考停止状態にし、聖書を使ってその人の心をコントロールする）

今回は、霊的ハラスメントを中心に話が進められました。霊的ハラスメントには3つの危険な思考システムがあります。

・「教会は善、一般の世界は悪」

教会牧師は神側、それ以外はサタン側という二元論、自分たちの教会は一番祝福された正しい教会という。自分たちの神学が正当性を持つという教会員は、自分本来のアイディンティティーでなく、教会の思考システムにはまっていく。牧師批判や疑いを禁止し御言葉を通して魂を支配するのに使われる。

結果は、ある思考システムの中に閉じ込め混同させられる。

・「現在より過去が高く評価される」

この枠にいるクリスチャンは現代社会を否定的に見ている。現代社会から影響を受けないため、自分の思考システムを固く守る。

・「支配者のように」

聖書は権威に対して絶対服従は教えていない。牧師に敬意を払うのは勿論ですが、牧師の環境（世襲）。定年がない。名誉牧師の制度などもハラスメントの生まれるシステムかもしれない。そして自己愛による働きは心に問題が生じる事がある。本人はハラスメントとは思っていないことが問題である。また信徒から牧師へのハラスメントもある。

ハラスメントを防止するためには、同じ職種や、同じ立場にある人とコミュニケーションをとりあい、心を降ろす場を作ることが大切です。

今年の 8 月フランスに帰国し、この問題を一層色々な角度から学び教えられたというパスカルさんのお話は出席者に身近な問題として示唆が与えられたのではないでしょうか。

（報告　松尾みつ子）

教会におけるハラスメントに悩む人のために

北海教区ハラスメント電話相談

毎月第3金曜日　午前11時～午後11時

011-757-6282

左記の日時以外はつながりません。

こんにちは！

性差別問題担当委員会です！

☆エッセイ☆

カラフル

清水和恵（新発寒教会）

誰にでも人生の応援歌があると思います。

わたしの場合は、今年「生と性の豊かさセミナー」に講師として迎えた平良愛香さんの「主につくられたわたし」です。元気のでる歌です。そして、この歌は神様の創造のすばらしさを謳いあげています。わたしの属している教会でも人気があってよく歌います。（楽譜のほしい方はご連絡ください。）

○

創世記の創造記事には注目すべき言葉があります。一つは「神はお造りになったすべてのものをご覧になったとき、極めてよかった。」（1：31）ここに、平良さんが『「神様が作ったものに不良品はありません。」を伝えるために、自ら男性同性愛者であることを公言して牧師となった』と語る根拠があると思います。そしてもう一つ、2章7節の神は人を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れたとき、人は生きるものとなった記事です。神はすべての人に尊くかけがえないものを与えられました。そのひとつは性的指向（いずれの性別の人間を恋愛、性愛の対象とするかをいう。）であると思います。神はわたしたちを祝福のうちに良きものとして創造し、それぞれの性的指向を贈ってくださいました。つまりいかなる性的指向を持とうと、神の創造のゆえに、一人ひとりの人生は神の「お墨つき」です。神はわたしたちが堂々と自分らしく生きることを良しとされています。「傑作」であるわたしたちの生と性は十人十色。カラフルはすてき。わたしらしく生きることを大切にして、多様性を認めあえる社会を作っていきたいですね。

「主につくられたわたし」

（作詞・作曲　平良愛香）

1．　わたしらしく生きよう。
　　自由に生かされて。
　　おとならしくでもなく、
　　子どもらしくでもなく。
（くりかえし）
　　ただわたしを造られた神に応える。
　　ただわたしらしく生きることで

2．　わたしらしく生きよう。
　　自分を確かめて。
　　男らしくでもなく、
　　女らしくでもなく。
（くりかえし）

3．　わたしらしく生きよう。
　　違いを認め合い
　　言葉、からだ、習慣。
　　すべてこのわたしです。
（くりかえし）

委員会掲示板

★キャラバンを呼んでください！
あなたの地域をご訪問します♪

★献金のお願い

2017年度献金目標 30 万円

Facebook やっています！

《この QR コードを携帯などで読み取ると Facebook の性差別問題担当委員会のページを開くことができます。ぜひご覧ください》

第66回 北海教区年頭修養会のご案内

■当日は聖書をご持参ください。講演の時に使用します。
スマホやパソコン等でも可能です。

☆日時: 2018年1月8日(月)～9日(火)
☆場所: 定山渓ビューホテル
☆テーマ: 「みんなでつくる礼拝」
☆講 師: 中道基夫氏
(関西学院大学教授、神学部長)
☆担当: 後志地区

★当日のプログラム

【1日目 1月8日】
- 13：00～ 受付
- 14：00～14：30
  開会礼拝
  オリエンテーション
- 14：30～17：30
  講演（セッション1・2）
  チェックイン
- 18：00～20：00
  夕食、バザー
- 20：00～21：30
  自主プログラム

【2日目 1月9日】
- 6：30～7：00
  早天礼拝
- 7：00～8：45
  朝食、チェックアウト
  バザー（7:45～8:45）
- 8：45～9：00
  教区アワー
- 9：00～11：00
  グループでの話し合い
  （セッション3）
- 11：00～11：15
  閉会礼拝
- 11：15～11：30
  あいさつ、閉会

◆プログラムの内容について

今回の年頭修養会のテーマは、「みんなでつくる礼拝」としました。

「礼拝」は牧師だけが考えればよいものでも、信徒が触れてはいけないものでもありません。
むしろ、今わたしたちが教会でささげている礼拝をひとり一人が問い直すことで、教会が厳しい時代の中で働くための新たな宣教の力が生まれていくと信じています。

プログラムの１日目は、あらためて礼拝を考えるために、まずは「そもそも礼拝とは何か？何のために礼拝をするのか？」「礼拝の歴史」「教派や教会による礼拝の違い」「礼拝の現状と課題と未来」などについて中道先生にお話をしていただきます。そして、十分お話を聞いた上で、２日目はグループでの話し合いの時を持ちます。この話し合いの中では、テーマに沿って、実際に礼拝をつくる作業をしてみます。
聖書の言葉をもとにしながら、今回は小さなグループに分かれて祝祷を一緒につくってみます。
これまでにあまりない試みですので、**何か新しい発見や力やヒントをそれぞれに持ち帰っていただきたいのです。**たくさんの方の参加を楽しみにお待ちしています！

北海教区
No.21 2017年11月

東日本大震災支援委員会ニュース

心と体をリラックス！ 第11回親子短期保養プログラム

８月３日～８日、福島県内から７組の親子19名といずみのスタッフ２名が参加し６日間の保養プログラムが行われました。放射線量を心配せずに、思い切り遊び、食べて、語って、少しでも心と体をリフレッシュしてほしいと願いプログラムは計画されました。

仙台空港で初顔合わせした参加者の皆さんと宿泊場所のクリスチャンセンターで歓迎夕食会が持たれました。教会の得意料理には道産の食材が使われ、お腹が一杯になったころ、札幌地区の青年たちのゲームで盛り上がり、みるみる打ち解けていきました。

翌日の百合が原公園では、子どもたちが青年や支援委員と思い切り走り回り、スキンシップを満喫していたようです。芝生の上での昼食、オムライスに描かれたハートマークに歓声があがりました。お母さんたちは木陰での休息。日常生活の不安や心配、また情報交換などくつろいだ様子がうかがえました。夕方からは北海道名物、こだわりのジンギスカンにアイスクリーム。風が強く、肌寒い夏の夕方を体験しました。二日間の自由行動日、オプショナルツアーもあり、ゆとりの時間がとれるように配慮しました。

分かち合いの時間では、長期間続く放射能にまつわる不安が周囲の人々から理解されにくい、家族の

↑草の上でお弁当！

理解があったとしてもすっきりしない悩み、もどかしさなどが語られました。保養プログラムの継続を願う声があがり、被災地の親子を支える息の長い活動の必要性を今回も感じました。地区の教会の方々、青年たちの協力によって感謝をもって無事に終えることができましたが、８日の最終日、台風５号の影響で予定していた飛行機から北海道新幹線に変更となり、新たな思い出が加わったプログラムになりました。

報告：石井美雪

≪主なプログラム≫　８月３日(木)～８日(火)

３日　新千歳空港着（14:00）
　　北海道クリスチャンセンターで歓迎夕食会
４日　百合が原公園でピクニック
　　札幌北部教会でジンギスカン
５日　自由行動
６日　自由行動
７日　オプショナルツアー
　　①　大倉山ジャンプ場（札幌）
　　②　ハイジ牧場（長沼）
　　③　レクリエーションの森（北広島）
　　分かち合いの時間
８日　飛行機が欠航のため、新幹線で仙台へ

←公園の芝生で、のびのび！

参加したお母さんから

5泊6日大変お世話になりました。応募する際、新規優先と言うことで、行けたらどんな方と一緒でどんな事をするのかな？と思いながら応募しました。集合して、お友達がいてびっくりしました。うちの子達は初めての飛行機で、わくわくドキドキしていて、その顔を見ている時から楽しかったです。北海道でもずーっと楽しく、ずーっと笑顔でいれました。

大倉山で見れた沙羅ちゃんとレジェンド!!子ども達が帰って来て宿題の日記にさっそく記入。うたちゃんの♪アキレスケンタウロス♪、帰宅後ズッと頭の中で流れ。レクの森ではわが家だけでしたが、親も必死に登り、いい疲れでした。なんと言っても原発事故後、気軽に森に入れなくなり避けていた場所。気にせず葉に触れ、走り回って遊ぶ姿が見れたのがとても嬉しかったです。本来の子どもの遊びが無かったんだと改めて感じました。保養って大切なんだなって思いました。芝生の上に寝転ぶ姿も深く印象に残りました。多くの方の支えでたくさんの今まで出来なかった体験をさせて頂き、親も神経使わずのびのび遊ばせることが出来、ストレスから解放され、充実した6日間でした。感謝してもしきれません。

事故後6年が経ち、親たちの意識の違いはありますが、我が子を思う気持ちは同じだと思っています。守ろうと思っている時、保養や甲状腺の検査等を行なって継続して頂けるのは本当に助かります。ありがたいです。受け入れるまでの準備、期間中、その後と大変ご苦労なさっていると思います。子ども達にもその事を理解し、感謝の心を持って欲しいです。保養でのたくさんの方との出会いも一生の宝物です。

今回は本当にお世話になりました。ありがとうございました。またお会いできる機会があれば嬉しいです。

←マイナスイオンが見える（？）

あの日から6年半！ 被災地に行ってきました。

9月25～27日 北海教区東日本大震災支援委員会が奥羽教区事務所・東北教区事務所・いずみ・エマオ・新生釜石教会・大船渡教会などを訪問しました。

この度のスタディーツアーを通して、震災に遭った教会とその地域社会の復興を目指してなされて来た、奥羽・東北両教区による働きの一端を知り、今後の課題についても思い巡らす機会をいただきました。奥羽では発災直後より議長を始めとする「緊急支援委員会」が主体になって、被災教会への人的・物的な支援と倒壊や破損などの会堂被害への対応が効果的になされた証しを聞き、胸が熱くなりました。東北では津波によって壊れた地域共同体との地道な関わりが継続されて来たことで、「被災者支援センター エマオ」の働きは深い信頼を寄せられていました。また、エマオ同様に規模の縮小を余儀なくされつつある「放射能問題支援対策室 いずみ」による甲状腺エコー検査や保養プログラムは、放射能への不安と恐れを抱く人たちのために今後もさらに継続されていく必要があると思います。

津波で消滅してしまった町々を車で走りながら、次への備えとしてなされる「土地のかさ上げ」という超大規模な「復興」の事業を目の当たりにしましたが、現地の教会・教区とわたしたち北海教区の諸教会には、被災の地が負っている目に見えない痛みや苦しみに気づき、関わり、担い合う祈りと働きとが、課題として与えられているのだと思いました。

報告：菊地啓示

あの日から止まったままの時計→

東日本大震災支援活動募金のお願い

送金先／ ゆうちょ銀行 記号:19070 番号:499431

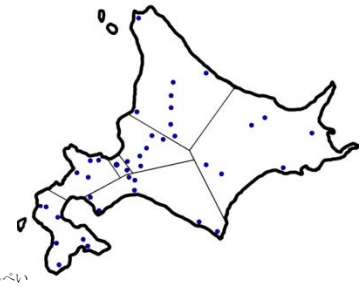
口座名義:北海教区東日本大震災支援委員会

ゆうちょ銀行以外からの振込の場合 店名:908 口座:0049943

北海教区による東日本大震災支援活動のために用いられます。

- 親子短期保養プログラムの継続
- 被災教会会堂建築事業（返済）の支援
- 記念礼拝の開催および支援のための学習・報告・啓蒙活

北海教区各地区の働き



道東地区

安部一徳（北見望ヶ丘教会）

道東地区は過去 2 年間主任担任教師不在の無牧師教会が全体の半数を占める厳しい状況が続いています。その中でうれしい知らせは、無牧師状態が続いていた帯広教会に、井田博康牧師が就任されたことです。井田牧師の就任式には、道東地区の全教会からの出席者が与えられ、喜びに包まれました。地区教師会も井田先生が出席されることによって新しい風が吹いたような気がします。

教師会は年数回行われてきました。今年は 6 月 19 日及び 11 月 28 日、2 月中に開催予定です。しかしそこには開催会場の問題が発生いたしました。これまで道東地区教師会は阿寒湖のホテルを会場に行われてきましたが、それは他教派の信徒の方がマネージャーを務めているホテルの協力があってなされてきたのでした。しかしその方の定年退職によってホテルの使用料が大幅に値上げされることになりました。そこで教師会の会場を従来から変更することが余儀なくされました。広域な道東地区にあって、会場の手配も大きな課題になります。

無牧師教会が多い中、今年度教区総会で決議された「主任担任教師不在の礼拝支援」制度は大きな力となっています。これまで新得教会、中標津伝道所、北見望ヶ丘、置戸教会が教区の制度を活用しています。大きな支えです。置戸教会の荒谷陽子宣教主事は教団補教師試験の準備中で地区内の一部牧師が聖書学や神学の基礎的な学びのアドバイスを行っています。

9 月 18 日には道東地区修養会を行う計画を立てていました。講師にはR.ウィットマー先生をお呼びし「活きた礼拝を捧げるために」の題で講演をいただくことになっておりましたが、台風が道東方面に接近により、機管理上休止となりました。大変残念結果となってしまいました。

道東地区は昨年度、大雨と台風の害にあいました。その傷が各地に残る重ねて今年度も影響を受けてしまいた。昨年度大雨により礼拝堂屋根に害を受けた北見望ヶ丘教会は、諸教の支えと祈りが重なり修復工事を行いえることができました。感謝です。

また新得教会は牧師館工事のため り合わせ事業を進めています。全国募金も開始されています。教区内の諸教会におかれましても祈りの課題として下さり、お支えいただきたくお願いいたします。

講師の小出清信さん

札幌地区

指方信平（札幌北光教会）

10月28日（土）札幌北光教会を会場に、隔年開催の信徒講座が行われました。「となりびとになるために―中標津伝道所の過去・現在・将来」との主題で、講師に中標津伝道所信徒の小出清信さんをお迎えすることができました（参加：12教会73名）。今教区総会で可決された「主任担任教師不在教会の礼拝支援に関する件」について、更なる理解の浸透を促す目的です。教区総会1日目夜の分科会で、中標津伝道所の信徒議員の方が「この議案をぜひ通して頂きたい」と熱く語っておられたのがとても印象的だったことがきっかけで、講演を企画しました。

はじめに、久世そらち教区議長の解説を頂き、支援制度の概要を確認しました。如何に札幌地区諸教会の積極的な協力が重要であるかを再確認させられました。

続く、小出さんの講演は、家庭集会時代から伝道所設立とそれ以降の26年の歩みを通して与えられた恵みについての信仰の証しのような内容でした。牧師のいた時代もそうでない時も、人知を超える神の意志とその御業が、常に人知を用いて豊かに働いてきたことを伺わせて頂きました。「礼拝堂の席を一つ埋めるために」と、ご年配の方々が励んで礼拝に出席されているとのお話に、主の御業を思います。

また講演後、札幌地区青年協議会（札青協）の委員長をしておられる櫻井寛人さんが、9月末に行った中標津キャラバンの報告をしてくださいました。中標津伝道所での経験が、青年たちの信仰の気付きや広がりに確かにつながっている様子を聴き、参加者の心に希望が灯りました。

伝道所創立当時から地道に続けられている中標津のゴーダチーズ販売は、伝道所財政を支えるものとなっており、なんと現在、年間3600個を売り上げているとのこと。一層のご協力を代わってお願い致します。

札幌地区は2019年1月開催予定の年頭修養会に向けて、10月19日にはじめの一歩、第1回目実行委員会を開きました。初めての委員となった方も多く、不安と期待が入り混じった会でしたが、札幌地区らしいプログラムを企画できればと願っております。

石狩空知地区

木村 幸（美唄教会）

11 月 3 日金曜日、美唄教会に於いて 2017 年度の地区信徒大会が催されました。“地区の連帯”というテーマを中心に学びを続けている石狩空知地区ですが、今年度は苫小牧地区委員長である杉岡ひとみ牧師を講師としてお招きし、苫小牧地区の共同牧会について学ばせて頂きました。

講師：杉岡ひとみ牧師

当日は62名の人数が一同に会しました。各教会の人数は減少しつつある中、毎年の信徒大会への参加者数は僅かずつながら増加傾向にあり、これは喜ばしい実りだと思います。講演の中では苫小牧地区の多岐にわたる活動に驚くこともあれば、似た悩みを見出して共感することもありました。うまくいかない部分を抱えつつも、継続して働きかけてゆくこと自体が大切な力であり、その中でかけ合う互いの言葉には深みと温もりがあると感じられました。

お昼には美唄ならではの焼き鳥やとりめしを頂き、バザーも賑わいました。午後からは、滝川二の坂伝道所と江別教会の現状を分かち合いました。今回の学びをそれぞれに持ち帰り、地区内の教会のことを「他人事」ではなく「わたくしごと」とするためにどんな取組みができるのか、模索し続けたいと思います。

昼食はとりめしと焼き鳥とくるみ餅で美唄尽くしで。

後志地区

阪口 孝（倶知安伝道所）

1.　各部・各会　担当者の計画（報告）に関する件

①岩内厚生園問安12月2日（第一土曜日）に問安を行う。②中高生の会 8 月 10～15 日芦別中高生キャンプに小西牧師と小西真理子姉がスタッフとして参加。④社会委員会 7 月 18 日より、小樽平和集会開催。日基の島田さんが沖縄から来樽。

2. 各教会、伝道所、関係学校報告に関する件

○倶知安伝道所、教会行事、8 月 6 日永眠者記念礼拝、墓前礼拝、9 月 24 日交換講壇 ⇒聖十字教会、・倶知安めぐみ幼稚園、園児数62名、教師4名を維持、次年度に2名確保。求人中。8 月 3 日新園舎起工式・平成 30 年度認定こども園幼稚園型に移行する。 利用定員1号60名、2号30名

○余市教会報告・教会学校キャンプ 7 月 29-30 日。子ども 46 名の参加。大学生、青年 3 名にお手伝いを依頼した。・礼拝出席は毎回 30 名を超えている。・9 月 3 日安河内敏さん、真樹さん、佐和さんの転会式を行った。・9 月 16 日、北星祭にて、教会紹介とたこ焼きの無償提供をした。・・11 月 1 日　今年最後の積丹礼拝を予定。村上浩康さんと由紀さん（洞爺湖教会員、余市在住）が出席されている。・11 月 26 日創立 132 年記念礼拝を開催。後藤学さん（札幌北部教会員、社会福祉法人神愛園理事長）が「高齢者社会の中で、希望をもって共に生きよう」と題して講演。・幼稚園は現在 64 名。・保育室にクーラーを設置。

○手宮教会報告・礼拝出席は 10 名程度。・9 月 17 日に臨時総会を開催し、旧会堂の土地売却を決定した。・10 月 1 日創立 60 周年記念礼拝と北星女子中校によるハンドベルコンサートを開催した。・今後、牧師招聘を含めたこれからの手宮教会に重点をおいて話し合う。

○小樽公園通教会報告●7 月 28-29 日札幌北部教会キャンプ。◆8 月 2 日（水）平和祈祷会、「沖縄の課題と沖縄教区を学ぶ」。●8 月 6 日平和を願う礼拝。▲9 月 24 日地区交換講壇礼拝、公園通教会は小西牧師（余市教会）、白﨑牧師は岩内教会へ。■9 月 10 日「高齢者」祝福、20 名。≪10 月 21 日（土）教会カフェ。今回はバザーと一緒に行う。≫

○小樽教会報告・礼拝に参加する年齢層が広がってきている。・1学期最後の 7 月 21 日－22 日のキャンプが無事遂行できるように願う。・8 月 6 日は召天者記念礼拝の後、墓前礼拝において、埋骨式を行う。・11 月 5 日にトリオマモーレに来てもらい演奏をしてもらう。

○小樽聖十字教会報告・6/20-7/29、8/29-9/26 までの期間、額田牧師が来樽、次年度への準備のための指導と学びの時間を持った。礼拝後には毎週全体会を開き教会について、信仰継承について、学び会を導いてもらった。・10 月 1 日〔日〕臨時総会を開催。額田牧師の招聘を決定した

○北星余市高校報告・9 月 16-17、北星祭が開催された。

○後志地区　北星デー・10 月 22 日に開催する。午後 1-2 時、今回は学生の弁論と上野幸星さん（国際基督教大学4年、余市教会会員、卒業生）から「北星余市・教会との出会いとそして今」とのテーマでお話をしていただく。ネット中継予定。

道南地区

石橋隆広（利別教会）

主な活動として道南地区子どもの教会夏季キャンプの報告致します。

8 月7，8日（月、火）ネイパル森にて、子どもの教会夏季キャンプが開催されました。参加人数は43名で、大人と子どもが半数ずつでした。プログラムに従って報告致します。

一日目の〈開会礼拝〉は地区長の渡辺兵衛牧師（八雲教会）でした。マルコ 10;13、14 より「子どもたちをわたしのとこ

ろに来させなさい」という題でメッセージが語られました。

〈賛美の時間〉では、賛美をしながら思いっきりみんなで一緒に踊り、神様を賛美する喜びがあふれました。また、今年は、函館千歳教会の賛美チームがリードしてくださり、一層賛美が盛り上がりました。

昨年に続き、〈教会紹介〉では、各教会の歴史や取り組みが報告され、互いの理解が深まりました。七飯教会の信徒による「読み聞かせ」も時代にあった子どもたちへの配慮がありました。

〈ウォークラリー〉では、昨年と同じスタイルものであったこともあり、子どものチームも手伝う大人もゆとりをもって取り組めました。

〈夕食のバーベキュー〉は、昨年の反省から調理班と食卓を分けることによって、子どもたちも手伝いつつ安全に進めることができ、しっかり食べていただけました。

〈夜の花火〉も天候が守られ、キャンプにふさわしい一時となりました。

二日目の〈朝の礼拝〉は、鳴海（なるみ）しる牧師（七飯教会）でした。マタイ18:19,20より「イエスさまがおられるところ」という題でメッセージが語られました。

〈工作〉は、牛乳パックでペン立てを作りました。毎回子どもたちの発想に驚かされています。色とりどりのペン立てが完成し、夏休みの工作にも役立てていただけたことでしょう。

〈閉会礼拝〉は、松本紳一郎（まつもとしんいちろう）牧師（函館教会）でした。ヨハネ15:5より「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である」という題でメッセージが語られました。

このたびは、3回に分けて大人の参加者に「教会に来てよかったこと」と題して証しの時をもちました。子どもたちがこれからも教会につながっていけるようにとの願いからプログラムに加えられました。体験談が子どもの心に届いていたことがとても感謝でした。

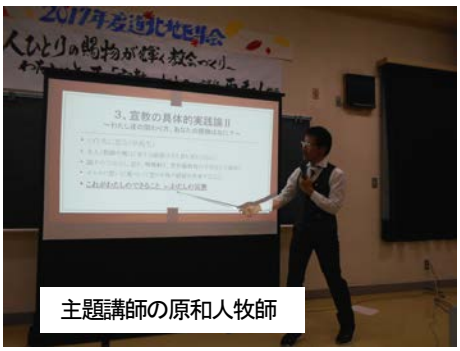
また、参加者に看護師がいてくださったことにより、主催者側も安心してプログラムを進めることができました。参加者のこの場をお借りしてお願い致します。来年もぜひご参加ください。子どもを大切にする地区として、これからも取り組んでいきたいと願います。

道北地区

韓 守賢（はん すひょん）（旭川豊岡教会）

10月8日（日）～9日（月、休）、びふか温泉にて、道北地区集会が開催されました。道北地区の一員として、自分にできる「宣教」とは一体、何だろう？ そのことを皆で分かち合い、祈りたいと考えました。

「主題講演」では講師の原和人先生は、ご自身の半生や牧師としてのお働きを通して、培ってこられた、ご自身の考える「宣教」について分かりやすく、説得力を持って語ってくださいました。



主題講師の原和人牧師

「信徒の声」では、三人の信徒の方たちが、教会の中や外で、これまで何を大切に思い、どのような働きをしてこられたのかについて分かち合ってくださいました。どのお話もリアリティが感じられ、聞く者の心に迫ってくるものでした。

スタンプラリー完全制覇第１号 合田三幸さん

「道北地区の今」では、「牧師招聘」というテーマで、旭川星光伝道所からお話を伺いました。新しく牧師を迎えるまで、星光に関係する方たちが心を一つにするために、緻密な準備を重ね、祈りと分かち合いを大切にしてこられたことがよく伝わってきました。

また、今年度から始まった「道北地区スタンプラリー」の表彰も行われ、なんと！ 早速、「コンプリート章 第1号」が生まれました。「道北地区スタンプラリー」は今後も引き続き行われますが、信徒と信徒が顔を合わせ、出会うきっかけとなることを願っています。

子どもたちがそれぞれ楽しそうに精一杯、体を使って遊んでいる姿も非常に印象的でした。子どもプログラム担当者の創意工夫や大人たちの理解によって支えられています。

旭川伝道圏の行事として、10月29日（日）には、教会創立30周年を迎えた留萌宮園伝道所を訪問しました。多くの方が関心を持ってくださり、大型バスを貸し切らなくてはならないほどです。

各教会にはそれぞれ課題があります。それでも、イエス・キリストの福音を信じて、希望に向かって共に歩もうとしています。

苫小牧地区

佐藤待子（洞爺湖教会）

「寄って集っての就任式」

2017 年 7 月 23 日（日）洞爺湖教会の主任担任教師佐藤待子の牧師就任式が行われました。89 人（20 教会・団体）がお集まりくださいました。

1 個教会の牧師就任式は、その教会の役員会やそのための委員会が計画し準備し、役割を分担します。そして、司会者やお客様をお迎えしての式後の会は、その教会の人たちの手によって整えられ、司会進行が行われることが多いです。これまでの他教区・教会の何回かの就任式はそうでした。

今回、苫小牧地区の三役・洞爺湖デー担当者と洞爺湖教会役員会が集まって「思い」や「願い」を語り合い、何度も必要な事柄を確認し合って、就任式に必要な事柄を地区内の教会がそれぞれを分担してくださいました。あたかも 8 つの教会が 1 つの教会のように就任式を作り盛り上げてくださいました。かつて、2001 年 6 月 10 日に行われた第 1 回洞爺湖デーに浅居正信牧師就任式が行われたように。

主なことでは、駐車場係を苫小牧弥生教会が、受付で千歳栄光教会の中野久子さんと遠藤秀子さんと、洞爺湖教会の高瀬久美子さんが皆様をお迎えしました。司式は、教区派遣の原和人副議長が、オルガンの奏楽は、苫小牧弥生教会の武田恵さんが、茶話会の司会は、千歳栄光教会の中野円牧師が担当してくださいました。地区内外から持ち寄ってくださったご馳走がテーブルからこぼれ落ちそうに並べられていました。主食におかずにサラダにデザートに飲み物など、地区内 8 つの教会（島松伝道所、千歳栄光教会、苫小牧弥生教会、室蘭知利別教会、幌泉教会、元浦河教会、浦河教会、洞爺湖教会）が分担しました。道北地区、札幌からも美味しい物を持って駆けつけてくださいました。千歳栄光教会の卜部くるみちゃんの食前の祈りで、美味しい物がどんどん参加者のお腹に入っていきました。そして、久しぶりに出会った方々との楽しいおしゃべりや新しい出会いの喜びに溢れていました。

洞爺湖教会は、大庭圓治さんが自己紹介を兼ねて招聘の経過をお伝えし、村上浩康さんと村上由紀さん、溝口敬さん 3 人が美しい歌声と楽器演奏を担当しました。杉岡ひとみ苫小牧地区委員長や何人ものお言葉を頂き、励ましと勇気を頂きました。2 年間代務者として洞爺湖教会を守り・支え・導いてくださった室蘭知利別教会の石川宣道牧師のお祈りで笑顔一杯の会は終わりました。後片付けは、室蘭知利別教会の方々が引き受けてくださり、あっという間にきれいに普段の姿に戻りました。

遠くて困難が多い状況にもかかわらず、お互いを大切に思い、具体的に行動し、顔と顔とを合わせての励ましを頂き、その日出席した洞爺湖教会員 5 人と私にとっては忘れられない恵みの時となりました。「困難な所に恵みが豊かにある」事を実感しました。

福音書に記されている、カファルナウムの「中風の人」が、4 人に抱えられ支えられ、「常識」を超えてイエスさまの祝福を受け、新しい歩みをはじめた事を思い起こします。洞爺湖教会が多くの方々によってイエスさまの所へ運ばれ、祝福を頂き新たな歩みをはじめました。今度は、運ぶ役割の小さな一部でも担えるようになりたいと願っています。

ウタンガイとは、ブヌン語で“挨拶”を意味する言葉です。

Divanのウタンガイ

札幌からこんにちは！

台湾基督長老教会 宣教師
ディヴァン・スクルマン

訪問記

中布中会の皆さんが北海教区に来てくださいました！

利別教会

私の所属する中布中会の先生と信徒計 17 名は、９月１日から８日まで、北海道を訪問しました。

教区の教会（美唄教会、札幌北部教会、札幌富丘教会、島松教会、利別教会、真駒内教会）、有珠聖公会教会、北星学院女子中高等学校、瀬棚三愛畜産センターの横山一康さんの農場を訪問しました。アイヌ民族情報センターを通して、アイヌ民族との交流もできました。すべてのプログラムがたくさんの人々から協力をいただいて、感謝します。

ある人が私に言いました「ディヴァンさんはどうやってプログラムを作りますか。」「お祈りしかないのです。」と私は答えました。実は、台湾の教会から電話やメールがきたとき、私はいつも悩んでいます。彼らにとって北海に訪問することはとてもうれしいことです。ですから、いつもどうぞいらしてください。歓迎しますと返事をしました。けれども、実際には彼らが北海道にきたら、何を学んでもらおうか。本当に悩んでいます。その時私は祈りながら考えます。来るメンバーは何を見学をしたいか、目的などを聴きます。もし目的が分らないならば、お互いにお祈りして下さいと私は言いました。その後お祈りの時に、頭の中に訪問の地図が浮かんできます。毎回の訪問のプログラムをつくる時、私はお祈り以外に、多くの集会や活動に参加します。そこで色々なことを学び、プログラムを作る示唆が与えられていきます。

美唄教会

みんなの感想

５月に訪問した林（りん）先生：初めて阿美中会の先生たちと一緒に海外訪問し、初めて北海道に来ました。アイヌ民族の境遇を聞いて、胸に叫び声をあげます。私たちと同じ原住民族の立場で、善良なアイヌ民族のために祈ります。「農業は地味な作業、また同じことが繰り返します。しかし、汗を流しながら農業の意味が分って来ました。一つの食べ物は一つの命を支える。食べ物の成長は神さまがします。私たちは神さまから御恵みをいただきます。ですから、私たちはただで受けるだけではなくて、隣人と分かち合わなければなりません。」この言葉は印象深く残ります。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

９月に訪問にきたブニ先生：日向幹事の報告を聞いて感動しました。特に教区は一つ一つの教会を大事に支えることを聞いて感動しました。自分も小規模の教会で働いてます。大変なことがあります、けれど日向幹事のお話や、美唄教会の木村先生のお話を聞いて、たいへん学ばせられました。「教会は小さいけれどできることがあります。」この言葉は私にとって力になります。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

９月に訪問にきた馬（ま）長老：小教会もいろんな方法を使って宣教をしてます。教会員は教区のすべての教会を自分の教会のように大事に守っていることを教えられました。主イエスは私たちの模範となり、彼は自分の民（イスラエル）に関心を持つだけではなくて、イエスは更に弱い立場にも関心を持ちました。今日出会う機会が与えられました。私たちも愛を持って、宣教パートナシップが繋がって、人力、資源など、お互いに交流して分かち合いましょう。

島松教会

道北センターの　賛助会員・維持会員になってください！

道北センターは3つの柱に沿って、名寄を拠点とし北海道各地に出かけて行き、活動しています。

1　様々な民族、国籍、性的指向、体や精神に個性を持つ人たち、社会の中で小さくされた人たち、悩み疲れた人たちが滞在し、出会い、繋がり、力を得る場として、神とゆっくり語り祈る場として、いつも開き続けます。
2　神を愛し、人を愛し、土を愛す、三愛精神に基づき、教会と畑、都市と農村をつなぐ役割を担い、農村、農業を応援します。
3　道北、北海道の小さな教会を応援し、連帯を強め、共に助け合うために働きます。

道北センターは1960年の設立以来、カナダ合同教会の宣教師と共に歩み、様々な国からゲストを迎え、教会や地域の方々と、信仰、文化、物語を分かち合ってきました。小さな北の町にあるこのセンターには、「世界へつながる窓」があります。今年の春から夏にかけても、バラエティーに富んだ方々がセンターを訪ね、滞在されました。台湾基督長老教会・阿美中会（あみちゅうかい）の皆さん、玉山（ぎょくざん）神学院神学生、道北三愛塾参加者、農村伝道神学校実習生、在日韓国人の活動家、リトリート（黙想の集い）の参加者、放射線の高い地域から保養に訪れた母子などが訪れ、「ここは不思議な場所です。ここに来ると心も体もほどかれ、ホッと息をつくことができます。元気を取り戻し、また自分の場所に戻っていけます」と言われ、自分の家のようにゆったりと過ごされました。

この20年間に上川地方の農家戸数は半減しました。全国で農民はとても厳しい状況に置かれています。食料自給率は38パーセントまで下がり、このままでは地元の食材を食卓に並べることが、ますます難しくなっていきます。

「北のリトリート」参加者の皆さん

道北センターでは年2回、道北三愛塾を開き、農と食について学び、そのネットワークを活かして農業体験の提供や、就農したい人とベテラン農家をつなぐ役割などをしています。今年も台湾原住民族の人たちや、放射能汚染で土に触れることができない地域のこどもたちが、田植えや動物たちとの触れ合いを楽しみました。

そして、道北地区には広大な地域に10の教会がありますが、多くの教会は小さく、歴史の中で何度も無牧師の経験をしてきました。センターは地区の事務局や、稚内、興部、名寄、士別の教会の代務者となり、各教会の礼拝応援、こども会、家庭集会などを担い、一緒に歩んできました。時には、北海教区内の遠方の無牧師教会も応援に出かけることもあります。この他にも、平和活動やアイヌの方々の文化や現状を伝える集いなども行っています。

このような活動を今後も継続するためには、しっかりとした財政基盤が必要です。カナダ合同教会宣教師、ロバート・ウイットマーさんとウイットマー圭子さんが引退された後、人的にも経済的にも逼迫し、ギリギリのところでなんとか活動を続けてきましたが、とても困難な状況です。年間を通した収入が少ないため、クリスマス募金前の数ヶ月は、給与や各種の支払いが滞る心配をいつも抱えています。来年は一つの教会の代務の役が終わる見通しで、諸事情からさらに90万円近い収入がなくなる見込みです。

経済的な困難を抱えている方や教会が多い中で、さらなる献金をお願いするのはとても心苦しいです。しかし、道北センターは北海道のクリスチャンにとって、また全国の多くの人にとって、なくしてはならない大切な場所だと思っています。どうぞ道北センターを支える仲間になってください。北海教区内の教会に趣意書を送らせていただきますので、ご覧になり、ご検討くだされば嬉しいです。

道北センター主事　藤吉求理子（ふじよしくりこ）

お楽しみ！クロスワードパズル

クロスを解いてA~Fを並べると、こたえ:

A	B	C	D	E	F

1 E	2	■	3	■	4	5 B
■	6	7		8		
9	■	10		F		■
11	12 A	■	13		■	14
15		16	■	17 D	18	
■	19	C	20	■		■
21		■	22			

たてのカギ

2. 釧路の夏に多く発生する水のつぶ
3. 最後の字ではじまる言葉を考えるゲーム
4. キャンプでその中で寝るのは楽しいヨ！
5. えりも産が有名な貝
7. 海に溶けていて、料理によく使います。
8. 「しなければ良かった」と残念がること
9. お父さんのお姉さんのこどもは？
12. プレゼントを紙で包むこと
14. 北海道の山にいるシマ〇〇・エゾ〇〇
16. 北海道の山にいるツノの生えたエゾ〇〇
18. 雨が降ったので運動会は〇〇〇します
20. 岩より小さく砂より大きいかたまり

よこのカギ

1. 昔の人が使った器が土にうまっています。
4. 磁石にくっつくよ！
6. べてるの家が売っているのは＝日高昆布ですが・・・稚内教会で売っているのは？
10. 兄弟姉妹、年下のおとこのこは？
11. 乗り物を使わずに歩くこと
13. 国語・算数・〇〇・社会 （去年も出た問題）
15. 授業や集会でお話しをしてくれる人
17. クリスマスに生まれた赤ちゃんの名は？
19. 戦争の時、人が都会から地方に移住しました。
21. お鼻の長い大きな動物
22. 原稿の〇〇〇〇は守って下さいね。

~~~~~~

こたえをハガキかFAXでお送り下さい。2018年1月5日(金)必着

〒060-0807 札幌市北区北７条西６丁目 日本キリスト教団北海教区事務所
FAX番号 011-757-6271

抽選で以下の賞品が当ります。(年頭修養会会場で発表)

Ａ賞：愛媛県いよかん10kg（提供：北海道キリスト教書店）１名様
Ｂ賞：教区幹事手作りのマグカップ（提供：北海教区事務所）４名様
Ｃ賞：（検討中！）（提供：北海道クリスチャンセンター）２名様
Ｄ賞：オリジナルポスターカード（提供：ホレンコ）３名様
Ｅ賞：花のポストカード５種類セット（提供：れたすらん販売部）10名様
~~~~~~

編集後記

クリスマスが近づいてきました。この時期に、つい出てしまう声があります。

「あーもう一年経ってしまったのか…」

言った後に反省して言い直すことにしています。

「今年もクリスマスがやって来てくれた」。

喜びに慣れてしまうことのないように過ごしていきたいと思います。

国内外、世の中に起こる様々な事故や事件を思う時、暗くならざる得ないこともありますが、そのような暗闇でこそイエス様がこの世の光としてきて下さったことを覚えていきたいと思います。この通信が良き知らせとして皆様の元に届きますように。

教区に連なる全ての皆様に良きクリスマスが訪れますようにお祈りいたします。

衛藤 満彦

広報委員
木村 拓己 （美唄教会・委員長）
倉本 真理 （札幌富丘伝道所・書記）
衛藤 満彦 （春採教会）
亀岡 徹 （島松伝道所・会計）
高橋 雅之 （札幌北光教会）
高濱 梨紗 （札幌元町教会）
難波 真実 （無任所教師）
丸山 澄夫 （西札幌伝道所）

表紙の絵
枝元 威郎 （十二使徒教会）

まんが
塩谷 真澄 （洞爺湖教会）

レイアウト協力
日向 恭司 （北海教区幹事）

北海教区通信をお読みになっての
ご意見ご感想などをお寄せください

koho-edit@hokkai-net.jp

（北海教区広報委員会メール）

北海教区公式サイト

http://www.hokkai-net.jp

● 編集・発行 ●

日本基督教団（キリスト）　北海教区

〒060-0807　札幌市北区北７条西６丁目
北海道クリスチャンセンター３F
E-mail：kanji@hokkai-net.jp
ホームページ：http://www.hokkai-net.jp/